2026年度第2四半期
決算説明資料

2026年11月5日

旭化成株式会社

業績に関する補足の詳細データは、
「Financial Factbook」として当社WEBサイトに掲載しています
https://www.asahi-kasei.com/jp/ir/library/financial_briefing/

AsahiKASEI
Creating for Tomorrow

説明のポイント

AsahiKASEI

2026年度　上期実績	
営業利益 （のれん償却前営業利益）	親会社株主に帰属する 中間純利益
1,654億円　前年同期比 +54.0%	**1,022**億円　前年同期比 +54.2%
（ **1,845**億円　+49.0% ）	

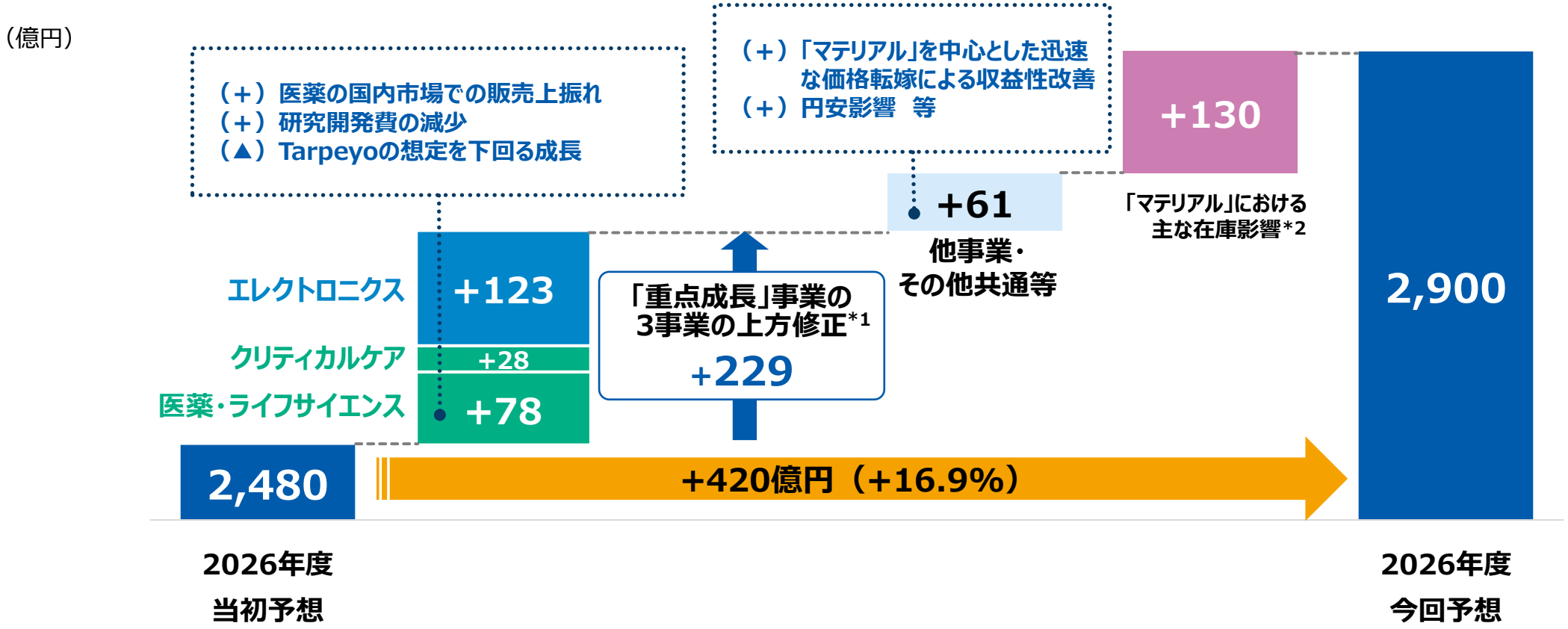
2026年度　通期予想	
営業利益 （のれん償却前営業利益）	親会社株主に帰属する 当期純利益
2,900億円　前期比 +25.4%	**1,730**億円　前期比 +8.9%
（ **3,280**億円　+23.8% ）	

2026年度 上期実績	• 上期実績の営業利益は、**前年同期比で大幅な増益**。「重点成長」事業である医薬、クリティカルケア、エレクトロニクスの3事業の利益成長が牽引し、「マテリアル」における在庫影響による一過性のプラス要因を除く実力ベースでも増益
2026年度 通期予想	• 通期予想の営業利益は、**前期比で増益、当初予想（5月発表）を上方修正し、3期連続の最高益更新を目指す**。現中期経営計画の目標である営業利益2,700億円について、**1年前倒しでの超過達成の見込み** • 「重点成長」事業である医薬、クリティカルケア、エレクトロニクスの3事業の営業利益はともに当初予想から上方修正。特にエレクトロニクス事業は、旺盛なAI関連需要をとらえて利益を大きく上方修正
株主還元	• 好調な業績見通しを踏まえて、**2026年度の年間配当は前期比で6円増配となる48円を予想**し、DOE（自己資本配当率）は3.1%となる見込み。**中間配当は24円とした** • 2025年11月に決定した400億円を上限とする自己株式の取得を終了し、取得した自己株式の消却を実行

営業利益の当初（5月発表）予想からの変化

AsahiKASEI

- 「重点成長」事業である医薬、クリティカルケア、エレクトロニクスの3事業は当初予想から上方修正。特に、エレクトロニクス事業はパイメル、ガラスクロスを中心に旺盛なAI関連需要をとらえて利益を大きく上方修正
- また、中東情勢等による経営環境の変化に対応し、「マテリアル」を中心とした迅速な価格転嫁やコスト削減等の収益力強化の推進により、利益を底上げ



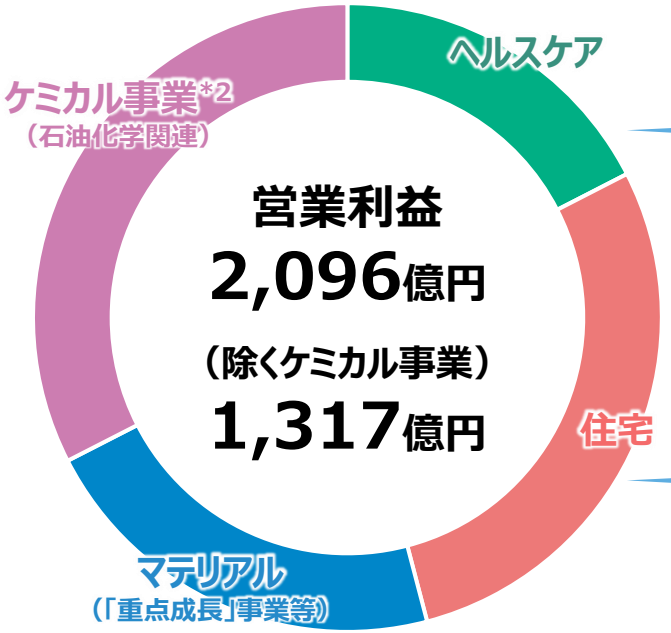
*1　ライフサイエンス事業を含む　　*2　エッセンシャルケミカル事業、パフォーマンスケミカル事業における在庫受払差、「マテリアル」における在庫未実現利益の変動

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（１）

AsahiKASEI

積極的な拡大投資を通じて事業ポートフォリオを変革

2018年度*1



M&A 約10,000億円

ヘルスケア

Veloxis PHARMACEUTICALS
calliditas THERAPEUTICS
itamar medical

住宅

DICKSON COMPANIES
ODC

マテリアル

SAGE Automotive Interiors

ヘルスケア



ウイルス除去フィルター
「プラノバ」

マテリアル

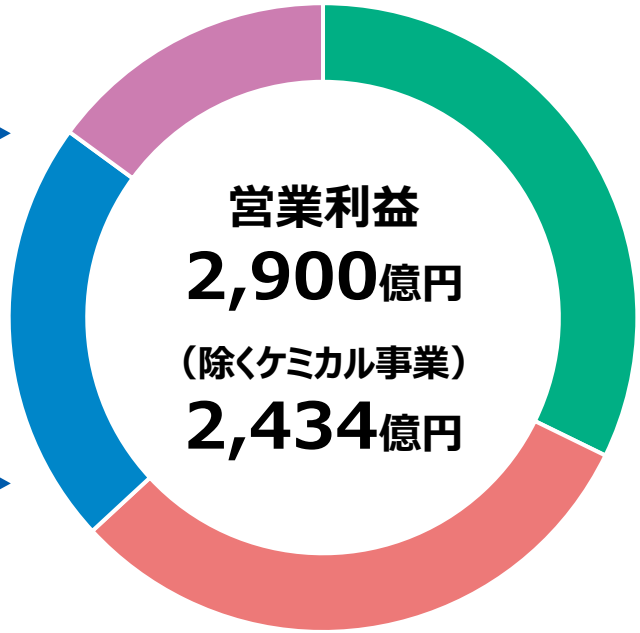


半導体保護膜／
感光性絶縁材料
「パイメル」



LIB用湿式セパレータ
「ハイポア」

2026年度予想*1



設備投資（拡大関連）約6,000億円

旭化成のエコシステム	高付加価値市場への注力	戦略的なキャピタルアロケーションの実行	多様な無形資産の活用（技術、人財、経営ナレッジ等）

*1 上記グラフはグループ全体から「その他」「消去又は全社」を除いた数値における構成比を示している

*2 現在のパフォーマンスケミカルとエッセンシャルケミカルに含まれる事業の利益の合計値

事業ポートフォリオ変革の進捗状況（２）

AsahiKASEI

前中期経営計画から「成長投資」と「構造転換」の両輪による事業ポートフォリオ変革を推進

現中期経営計画の初年度から、積極的な成長投資と構造転換を決定

(年度)*1 2022～2024 前中期経営計画2024 ~Be a Trailblazer~

2025～2027 ※2025年度意思決定案件（投資額は概算値） 中期経営計画2027 ~Trailblaze Together~

成長投資

ライフサイエンス
- Bionova（バイオCDMO事業）買収

医薬
- Calliditas買収

エレクトロニクス
- パイメル（半導体保護膜/層間絶縁膜）の能力増強

海外住宅
- Focus（ネバダ州）買収
- ODC（フロリダ州）買収

エナジー＆インフラ
- LIB用湿式セパレータの米国・日本での塗工設備増強
- LIB用湿式セパレータの北米における一貫工場の建設

エレクトロニクス
- パイメルの能力増強
  160億円 2028年度上期生産開始

エナジー＆インフラ
- クリーン水素製造用アルカリ水電解システムの生産能力拡大
  310億円 2028年度生産開始

医薬
- Aicuris買収
  1,443億円 2026年4月17日 買収完了

ライフサイエンス
- プラノバ（ウイルス除去フィルター）の新紡糸工場建設
  234億円 2029年度 商業生産開始

構造転換

エレクトロニクス
- ペリクル事業の譲渡

コンフォートライフ
- スパンボンド共同事業会社設立
- 旭化成パックスの事業譲渡

エッセンシャルケミカル
- PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル等の事業撤退

建材
- ALC岩国工場閉鎖

医薬
- 診断薬事業の譲渡

ライフサイエンス
- セパセル事業の構造転換
- 血液浄化事業の譲渡

エレクトロニクス
- UVC LED事業の終了

エナジー＆インフラ
- 鉛蓄電池用セパレータ事業の譲渡

コンフォートライフ
- 商社機能の経営統合

パフォーマンスケミカル
- ヘキサメチレンジアミンの生産終了

エッセンシャルケミカル
- MMA等の事業撤退
- AMEC*2水島工場のエチレン設備停止
- 水島製造所の一部誘導品事業の再構築

クリティカルケア
- データマネジメント事業の一部を譲渡

*1 意思決定の年度　　*2 三菱ケミカル旭化成エチレン株式会社

2025年度以降の各事業の開示区分と位置付け

AsahiKASEI

2025年度より、各セグメント内のサブセグメントを再編（詳細は参考資料を参照）

「重点成長」・「戦略的育成」事業への投資継続、利益成長の実現と並行して「収益改善・事業モデル転換」事業の改革を進める

	ヘルスケア	住宅	マテリアル
重点成長 ● 過去投資からの利益創出 ● 非連続成長も含めた積極投資	医薬 クリティカルケア	海外住宅	エレクトロニクス
戦略的育成 ● 将来の成長ドライバー ● 競争力強化の観点での提携戦略推進	ライフサイエンス	不動産開発	エナジー＆インフラ
収益基盤維持・拡大 ● 安定収益創出 ● 拡大機会は資本効率を強く意識した上で判断		建築請負、リフォーム 賃貸管理・不動産流通 建材	カーインテリア コンフォートライフ
収益改善・事業モデル転換 ● 収益/資本効率が低迷する事業の構造転換 ● 無形資産を活用した新しい事業モデルへのシフト			パフォーマンスケミカル エッセンシャルケミカル

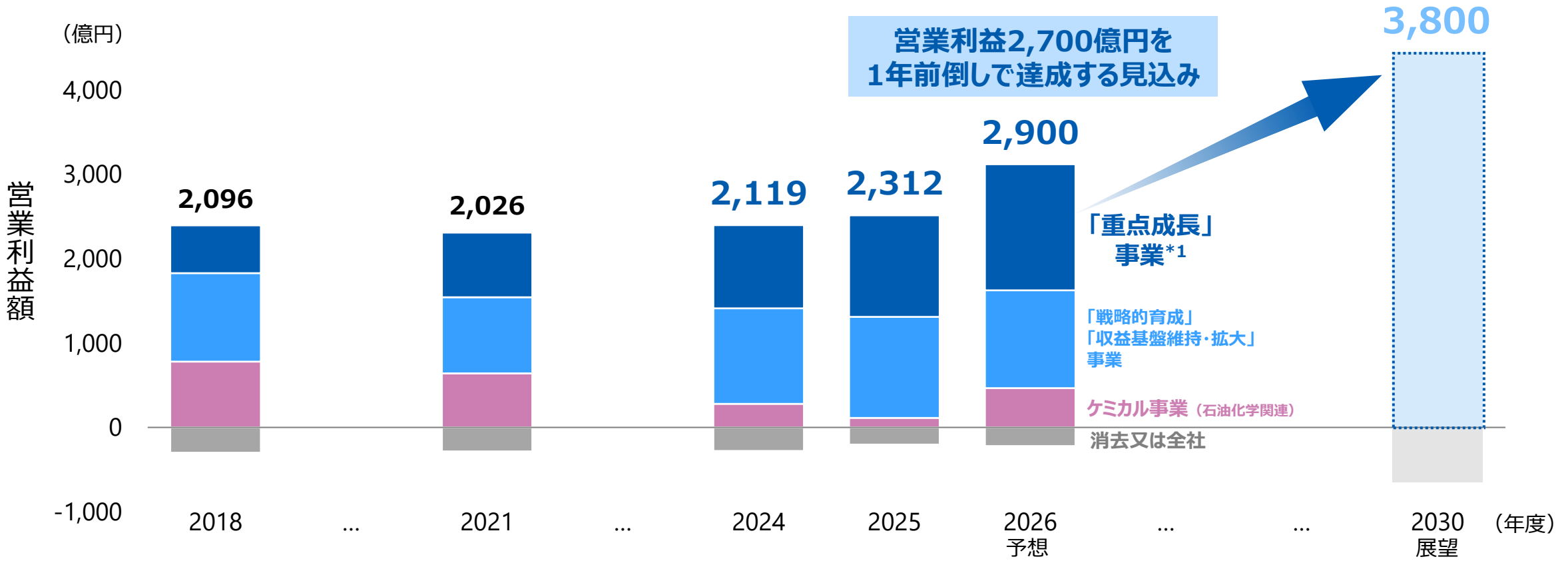
営業利益構成の中期推移

AsahiKASEI

- 2026年度は、「重点成長」事業を中心とした利益成長により、**3期連続の最高益更新を目指す**
- 現中計の最終年度（2027年度）目標の営業利益2,700億円を、**1年前倒しで超過達成する見込み。来期以降も事業ポートフォリオ変革の進捗の効果等により、「重点成長」事業を中心とした利益成長を見込む**

ケミカル事業は市況の影響を受けたが、全社の営業利益は概ね維持

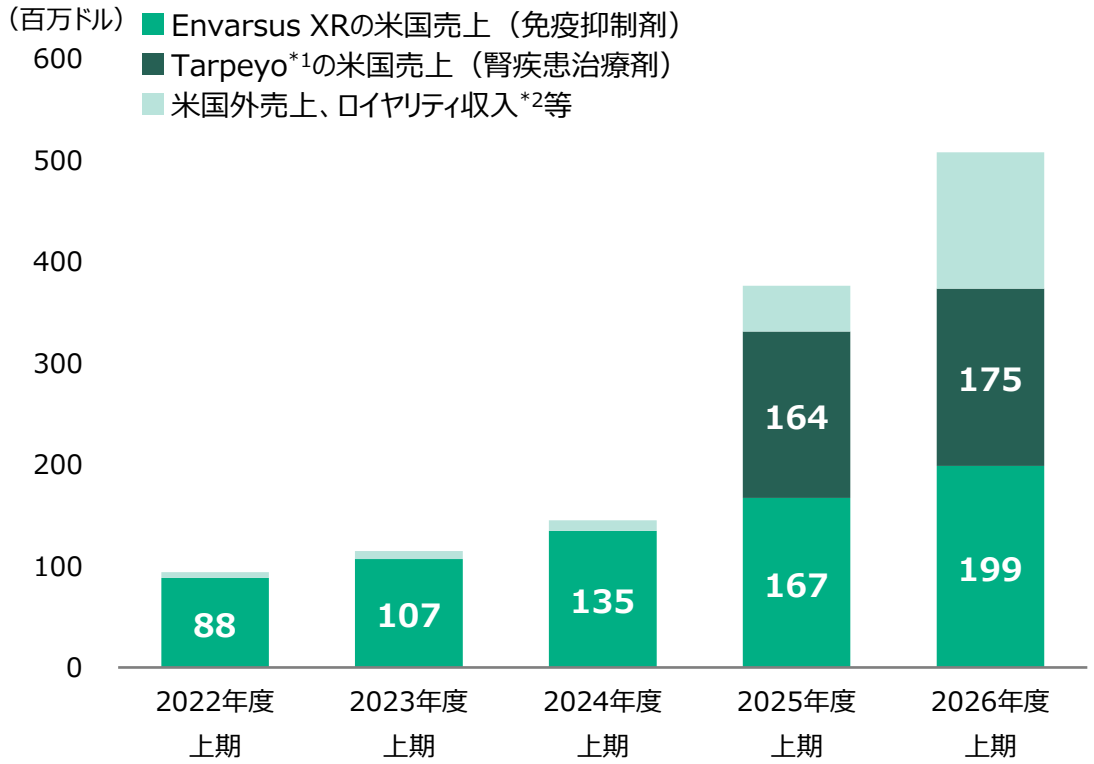
「重点成長」事業を中心に着実な利益成長を見込む



*1 現在の医薬・ライフサイエンス、クリティカルケア、海外住宅、エレクトロニクスに含まれる事業の利益の合計値

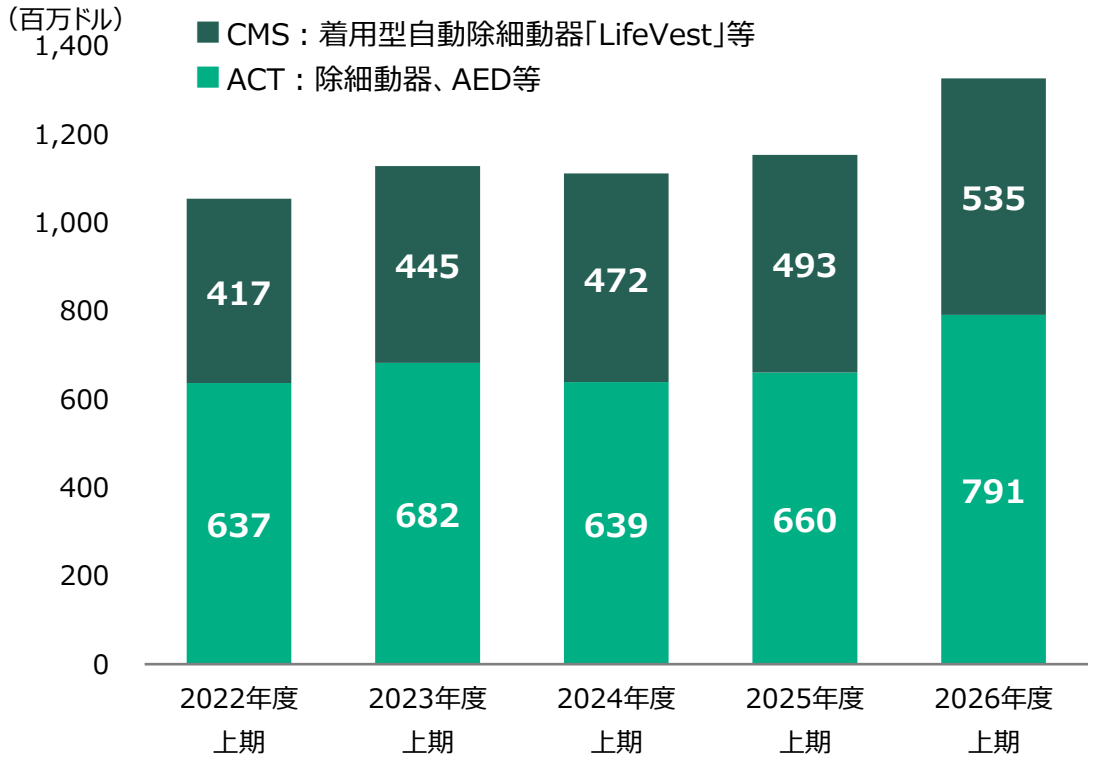
「重点成長」事業の状況（１）

医薬
海外医薬事業の売上高推移



- Envarsus XRは、市場シェア拡大により売上が成長、Tarpeyoは、IgA腎症治療薬の他社製剤とのすみ分けを維持し、堅調に推移
- 2026年10月にHSV感染治療薬のHovilpri（一般名：pritelivir）が米国のFDA承認を取得。今後の売上成長を期待

クリティカルケア
ACTとCMSの売上高推移*3

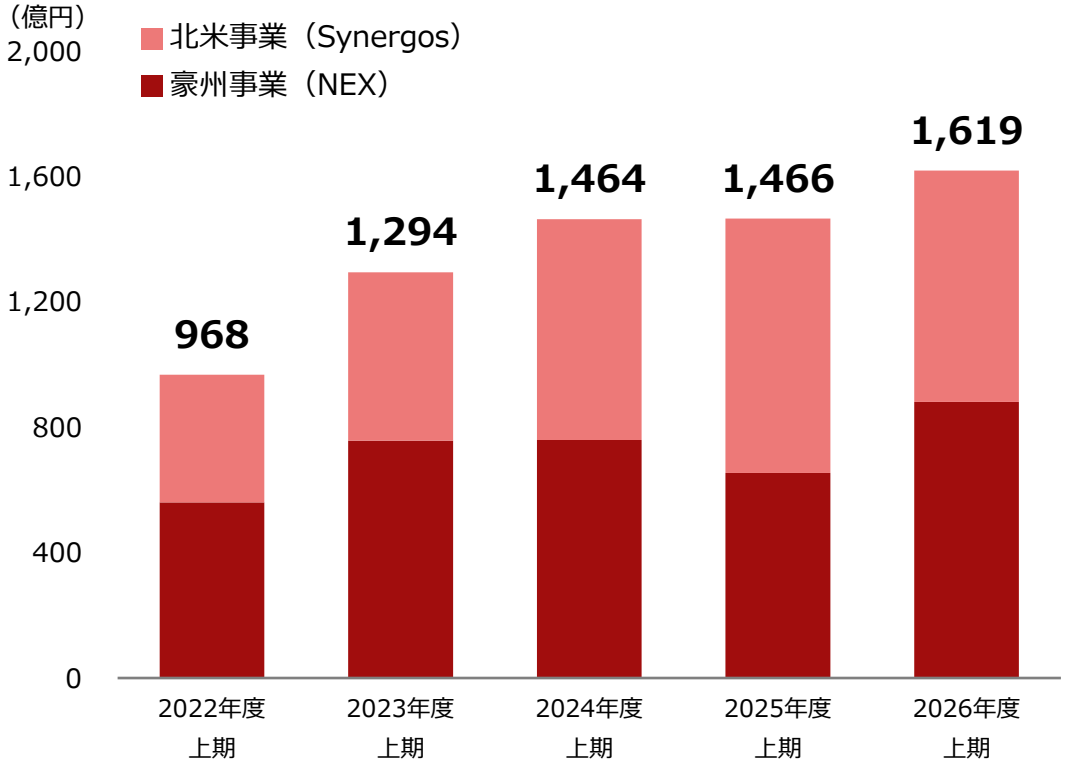


- ACTは、2025年9月に上市した除細動器の新製品の販売拡大によって売上高が成長
- CMSは、LifeVestの米国での認知度向上による市場拡大に加え、欧州での市場浸透が進捗し、売上高が成長

*1 Calliditas新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上　*2 Aicuris新規連結に伴い、2026年5月より当社でPrevymisのロイヤリティ収入を計上
*3 2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

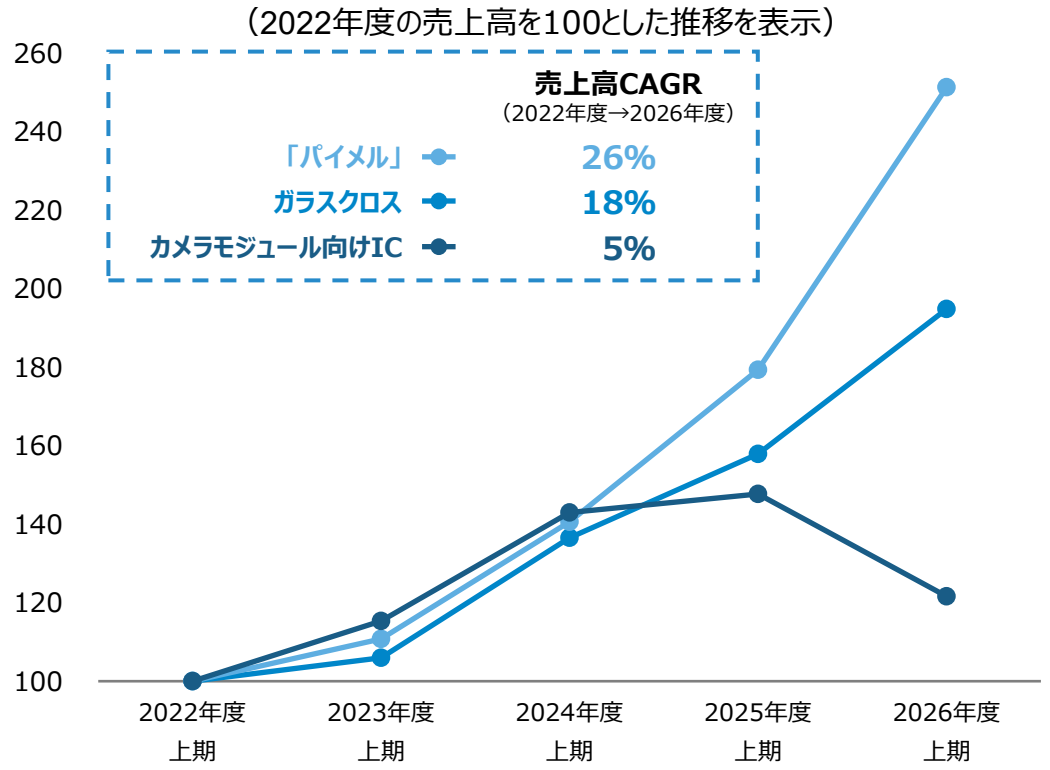
「重点成長」事業の状況（２）

海外住宅
北米事業と豪州事業の売上高推移



- 足元は北米事業の需要の影響を受ける一方で、豪州事業は2025年度に住宅需要が緩やかに回復したことを受けて、増収
- 中長期的には、北米・豪州ともに旺盛な需要を背景として着実な事業成長を見込む

エレクトロニクス
主力製品の売上高推移



- パイメルは、AI用途を中心に販売が堅調に推移。旺盛な需要を背景に投資を進めており、引き続き成長を見込む
- ガラスクロスも、AI用途中心に販売が堅調に推移。低誘電の高付加価値品へのシフトが進展し、製品構成差が改善

企業価値向上に向けて

AsahiKASEI

- 事業ポートフォリオ変革の加速や収益力向上等により、持続的な企業価値向上を目指す
- 2026年度より従業員持株会に特別奨励金制度を導入し、経営層ならびに従業員の企業価値向上に対する意識の醸成を図る

企業価値向上に向けた施策

事業ポートフォリオ変革加速
- 「重点成長」事業への投資の刈り取りを着実に実行するとともに、マテリアルにおいてROICがWACCを継続的に下回る事業の構造転換を加速

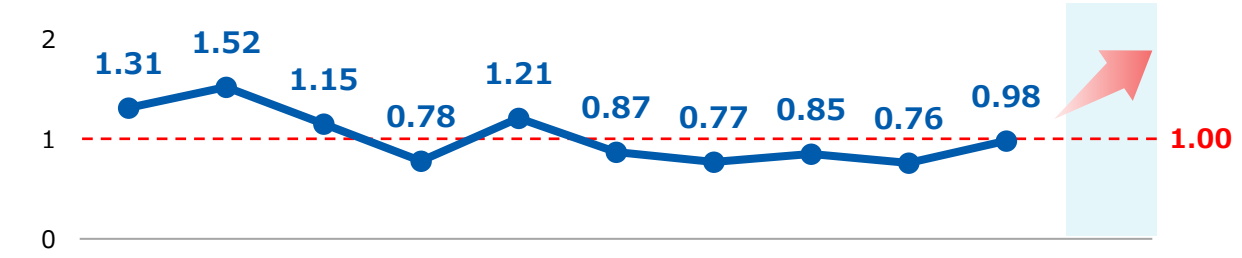
収益力向上
- 適切な値上げや汎用品削減、調達プロセス改革などによるコスト削減に加え、組織機能の最適化などの取り組みを推進

投資マネジメント強化
- 成長投資において、ハードルレート等の運用を強化して投資判断を高度化。投資後のモニタリングやフォローも徹底

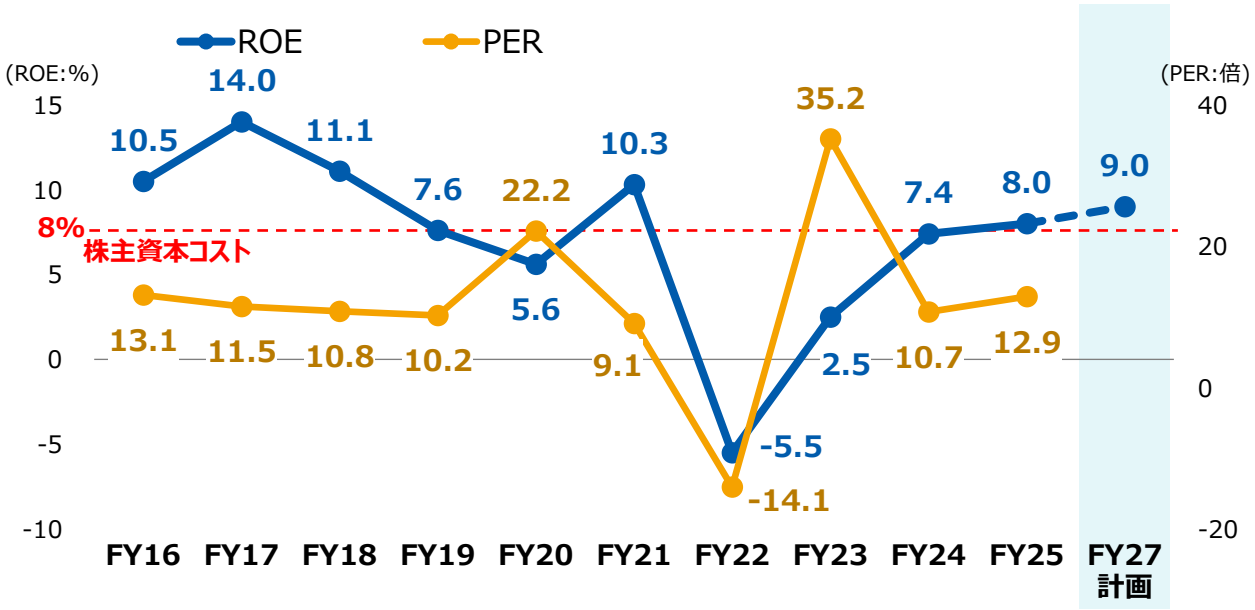
資本構成の最適化
- 資本水準適正化の視点での株主還元強化や、継続的な政策保有株式の縮減（過去5年で保有銘柄数を約70%、1,800億円超縮減）

資本コスト低減
- M&Aや大型投資の戦略や経営基盤強化の取り組みなどの開示、投資家との対話を継続的に拡充

PBR（株価純資産倍率）*1



ROE・PER（株価収益率）*1



*1 PBR、PERにおける株価は各年度末の終値を前提としている

1．2026年度上期実績

2026年度上期実績（連結）

AsahiKASEI

- 売上高は1兆6,896億円、前年同期比で2,032億円（+13.7%）の増収。前回予想（2026年7月発表）から上振れ
- 営業利益は1,654億円、前年同期比で580億円（+54.0%）の増益。前回予想から上振れ
- 親会社株主に帰属する中間純利益は1,022億円、前年同期比で359億円（+54.2%）の増益。前回予想から上振れ

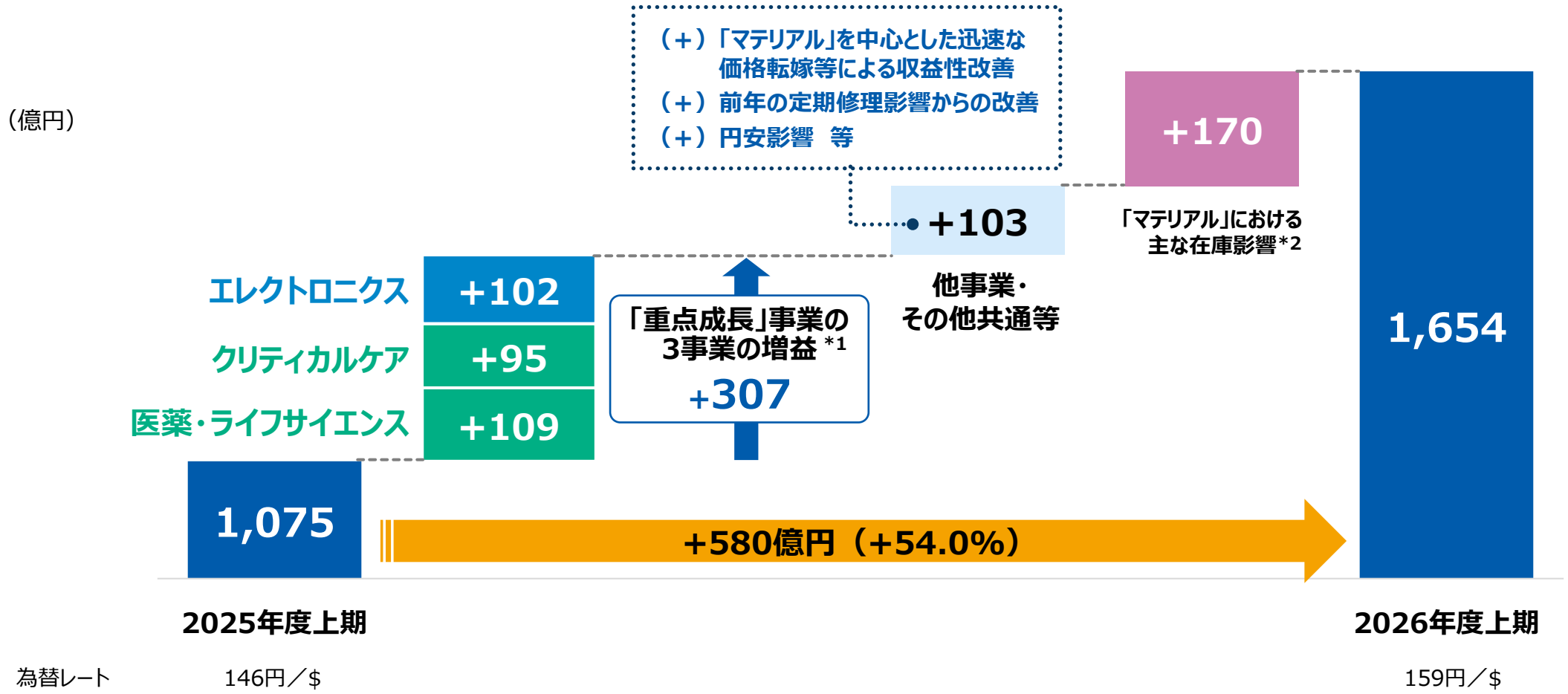
		2025年度上期	2026年度上期	前年同期比		2026年度上期 前回予想（2026年7月発表）	前回予想比 増減率
				増減額	増減率		
売上高	（億円）	14,864	16,896	2,032	+13.7%	16,860	+0.2%
営業利益	（億円）	1,075	1,654	580	+54.0%	1,450	+14.1%
売上高営業利益率		7.2%	9.8%	+2.6%		8.5%	
のれん償却前営業利益	（億円）	1,238	1,845	607	+49.0%	1,650	+11.8%
EBITDA*1	（億円）	2,029	2,726	696	+34.3%	2,580	+5.6%
売上高EBITDA率		13.7%	16.1%	+2.5%		15.2%	
親会社株主に帰属する中間純利益	（億円）	663	1,022	359	+54.2%	890	+14.8%
EPS	（円）	48.79	75.94	27.14	+55.6%	66.13	+14.8%
のれん償却前EPS	（円）	60.81	90.09	29.28	+48.2%	80.99	+11.2%
為替・ナフサ前提							
平均為替レート（USドル）		146円	159円			157円	
平均為替レート（ユーロ）		168円	184円			183円	
国産ナフサ価格		64,800円／kl	108,400円／kl			107,000円／kl	
1株当たり配当金		20円	24円			22円	

*1 EBITDA＝営業利益＋減価償却費（有形、無形、のれん）

2026年度上期実績（営業利益増減要因）

AsahiKASEI

- 営業利益は前年同期比で580億円（+54.0%）の増益
- 「重点成長」事業である医薬、クリティカルケア、エレクトロニクスの3事業における主力製品の販売拡大が寄与し、前年同期比での利益成長を牽引

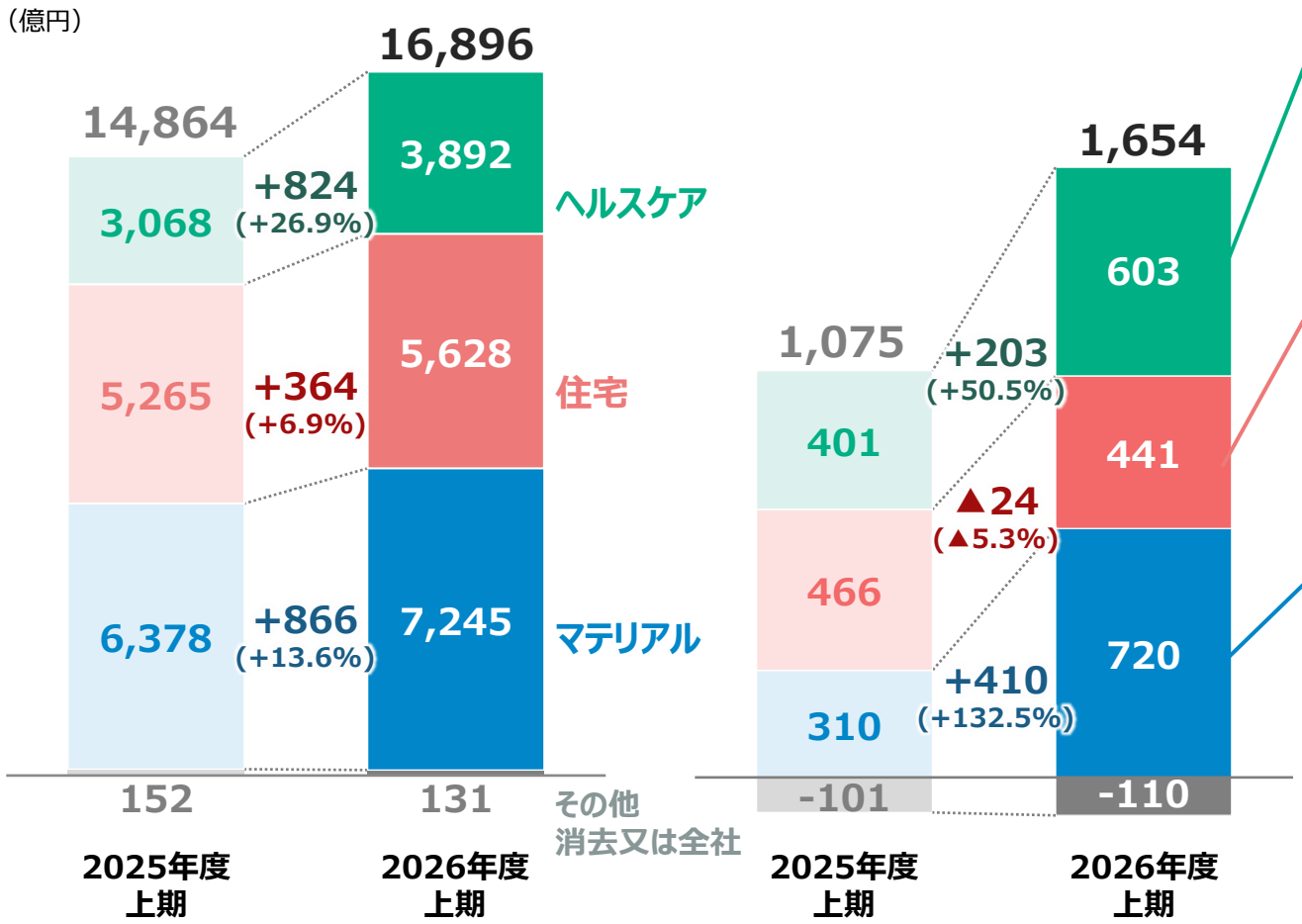


*1　ライフサイエンス事業を含む　　*2　エッセンシャルケミカル事業、パフォーマンスケミカル事業における在庫受払差、「マテリアル」における在庫未実現利益の変動

2026年度上期実績（セグメント別）

AsahiKASEI

売上高　前年同期比	営業利益　前年同期比
+2,032億円（+13.7%）	+580億円（+54.0%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア　+203億円

販管費増加の影響があったが、各事業の主力製品の売上成長や、円安影響等により、増益

医薬・ライフサイエンス事業	+109億円
クリティカルケア事業	+95億円

住宅　▲24億円

国内の建築請負事業や賃貸管理・流通事業が堅調に推移した一方、北米事業の需要減少や価格対応等により、減益

住宅事業	▲21億円
建材事業	▲3億円

マテリアル　+410億円

エレクトロニクス事業の主力製品の販売量増加に加え、各事業における迅速な価格転嫁や円安影響、エッセンシャルケミカル事業等の在庫受払差によるプラス影響等により、増益

エレクトロニクス事業*1	+102億円
カーインテリア事業	+18億円
エナジー＆インフラ事業*1	▲22億円
コンフォートライフ事業	+15億円
パフォーマンスケミカル事業*1	+133億円
エッセンシャルケミカル事業	+217億円
マテリアル共通*1	▲54億円

*1　2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

2026年度上期実績（セグメント別：前回（7月発表）予想比）

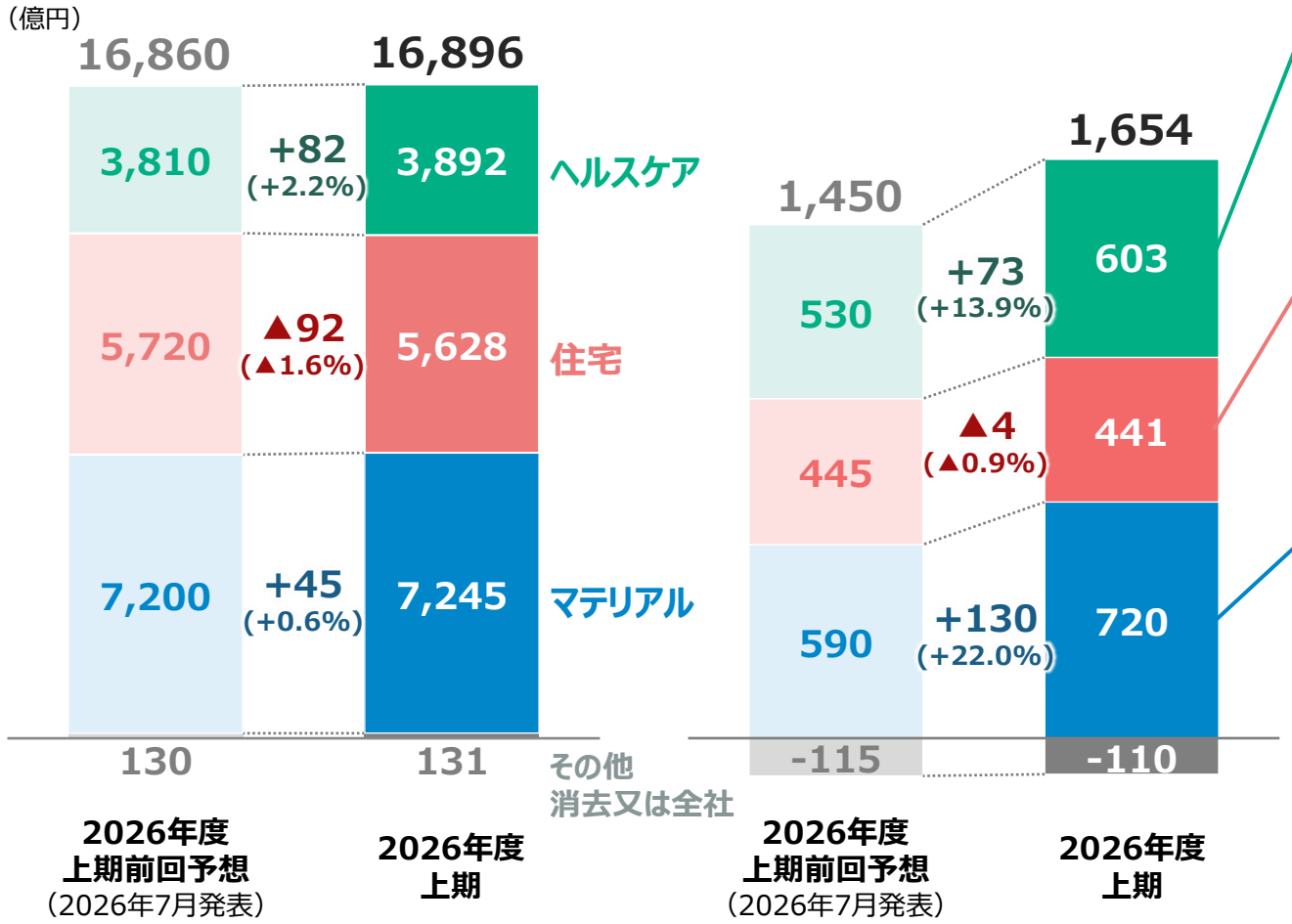
AsahiKASEI

売上高　前回予想比

+36億円（+0.2%）

営業利益　前回予想比

+204億円（+14.1%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア　+73億円

各事業の主力製品の売上が堅調に推移したことに加え、医薬事業における研究開発費が想定を下回ったこと等により、上振れ

医薬・ライフサイエンス事業	+61億円
クリティカルケア事業	+13億円

住宅　▲4億円

北米事業の需要回復の遅れを、建築請負事業等がカバーし、概ね想定どおり

住宅事業	▲6億円
建材事業	+2億円

マテリアル　+130億円

エレクトロニクス事業の主力製品の販売量増加に加え、エッセンシャルケミカル事業・パフォーマンスケミカル事業において価格水準を維持したことによる交易条件の改善等により、上振れ

エレクトロニクス事業	+39億円
カーインテリア事業	+7億円
エナジー＆インフラ事業	+7億円
コンフォートライフ事業	▲10億円
パフォーマンスケミカル事業	+43億円
エッセンシャルケミカル事業	+46億円
マテリアル共通	▲2億円

営業外・特別損益、法人税等

- 営業外損益は、支払利息の増加に伴う金融収支の悪化により、悪化
- 特別損益は、「マテリアル」におけるMMA等の事業撤退に伴う損失の影響があった前年同期から改善
- 法人税等は、税金等調整前中間純利益の増益に加え、前年同期には「ヘルスケア」の構造転換に伴う税金費用の軽減があったことから、増加

（億円）

	2025年度上期	2026年度上期	増減額
営業外損益	-14	-41	-27
投資有価証券売却益	232	30	-202
固定資産売却益	3	4	1
受取和解金	44	-	-44
関係会社株式売却益	77	-	-77
固定資産撤去費用引当金戻入額	-	27	27
特別利益	356	61	-296
投資有価証券評価損	4	8	4
固定資産処分損	29	28	-0
減損損失	12	1	-11
電力契約解約に伴う損失	44	-	-44
事業構造改善費用	362	28	-335
特別損失	451	65	-386
特別損益	-94	-4	91
法人税等	273	546	273

連結貸借対照表

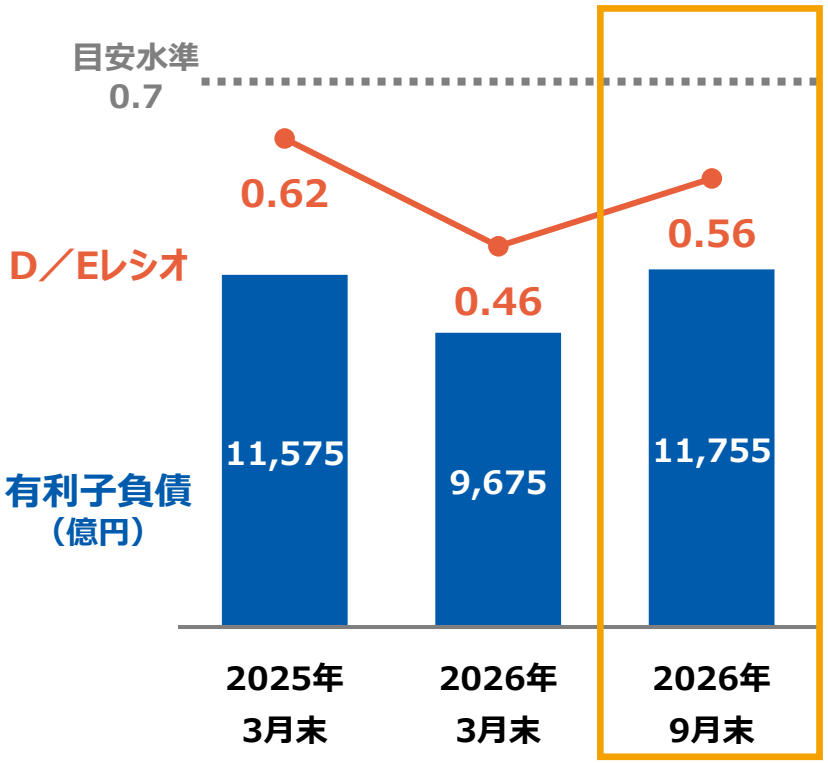
AsahiKASEI

- 手元資金の効率化施策の進捗に伴い現金及び預金は減少したものの、「ヘルスケア」におけるAicurisの新規連結に伴うのれん、その他の無形固定資産等の増加や、「マテリアル」「住宅」における棚卸資産の増加等により、総資産が2,735億円増加
- 中間純利益計上の一方、株主還元の実施や円高に伴うその他包括利益累計額の減少により自己資本は概ね横ばい。一方で、Aicuris買収に伴う有利子負債が増加したことから、D／Eレシオは前年度末から上昇し、0.56（目安水準である0.7の範囲内）

（億円）

	2026/9月末	2026/3末比増減額		2026/9月末	2026/3末比増減額
流動資産	19,667	1,014	負債	22,455	2,732
現金及び預金	3,559	-212	仕入債務	2,145	195
売上債権	5,397	259	有利子負債*1	11,755	2,079
棚卸資産	9,004	1,066	その他	8,556	458
その他	1,708	-100	純資産	21,660	3
固定資産	24,447	1,722	自己資本	20,853	-32
有形固定資産	10,155	545	株主資本	15,008	326
のれん	4,005	167	その他の包括利益累計額	5,844	-357
その他の無形固定資産	6,346	1,005	非支配株主持分	807	35
投資有価証券	1,401	-1			
その他	2,540	6			
資　産　合　計	**44,115**	**2,735**	**負債純資産合計**	**44,115**	**2,735**

■ 有利子負債、D／Eレシオ



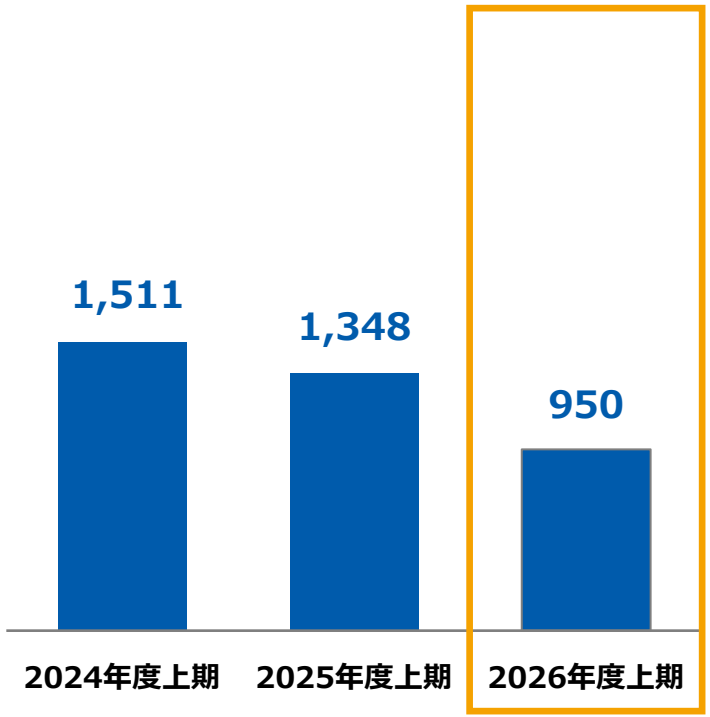
*1 リース債務除く

（参考） 26年3月末の為替レート （USD）160円 / （EUR）183円
26年9月末の為替レート （USD）157円 / （EUR）178円

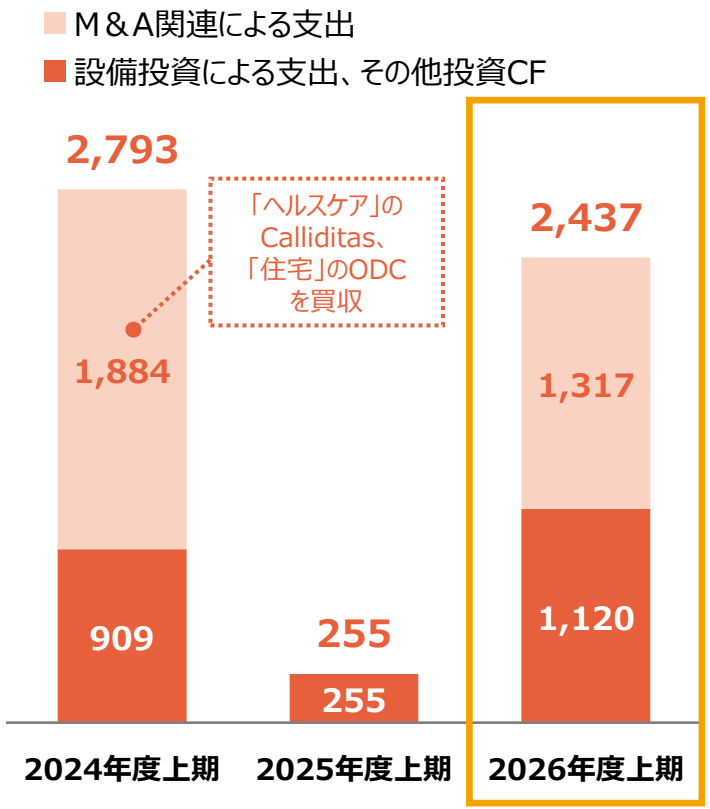
キャッシュ・フローの状況

営業CF	「重点成長」事業を中心とした利益成長に伴い税金等調整前中間純利益は増加した一方、原燃料価格上昇に伴う「マテリアル」の棚卸資産増加等により運転資本が増加したことから、キャッシュ・インは減少
投資CF	Aicuris買収に伴いM＆A関連による支出を計上したことに加え、「ヘルスケア」の事業譲渡があった前年同期からは子会社株式売却収入が減少したこと等により、キャッシュ・アウトが大幅に増加

■ 営業CF（キャッシュ・イン）

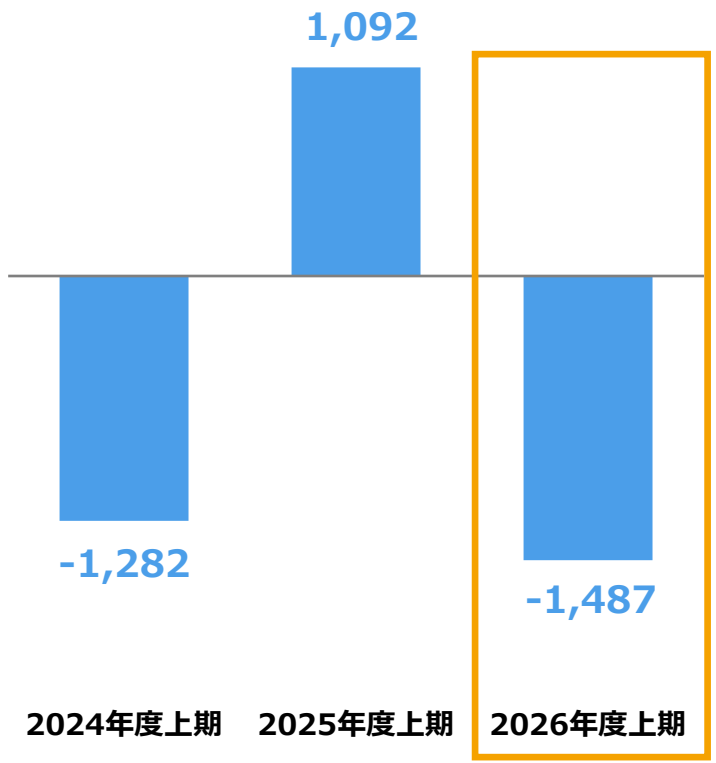


■ 投資CF（キャッシュ・アウト）



■ FCF（キャッシュ・イン）

（億円）



2．2026年度通期予想

2026年度通期予想（連結）

AsahiKASEI

- 売上高は3兆4,220億円、前期比で3,475億円（+11.3%）の増収。当初予想（2026年5月発表）から上方修正
- 営業利益は2,900億円、前期比で588億円（+25.4%）の増益。当初予想から上方修正
- 親会社株主に帰属する当期純利益は1,730億円、前期比で142億円（+8.9%）の増益。当初予想から上方修正

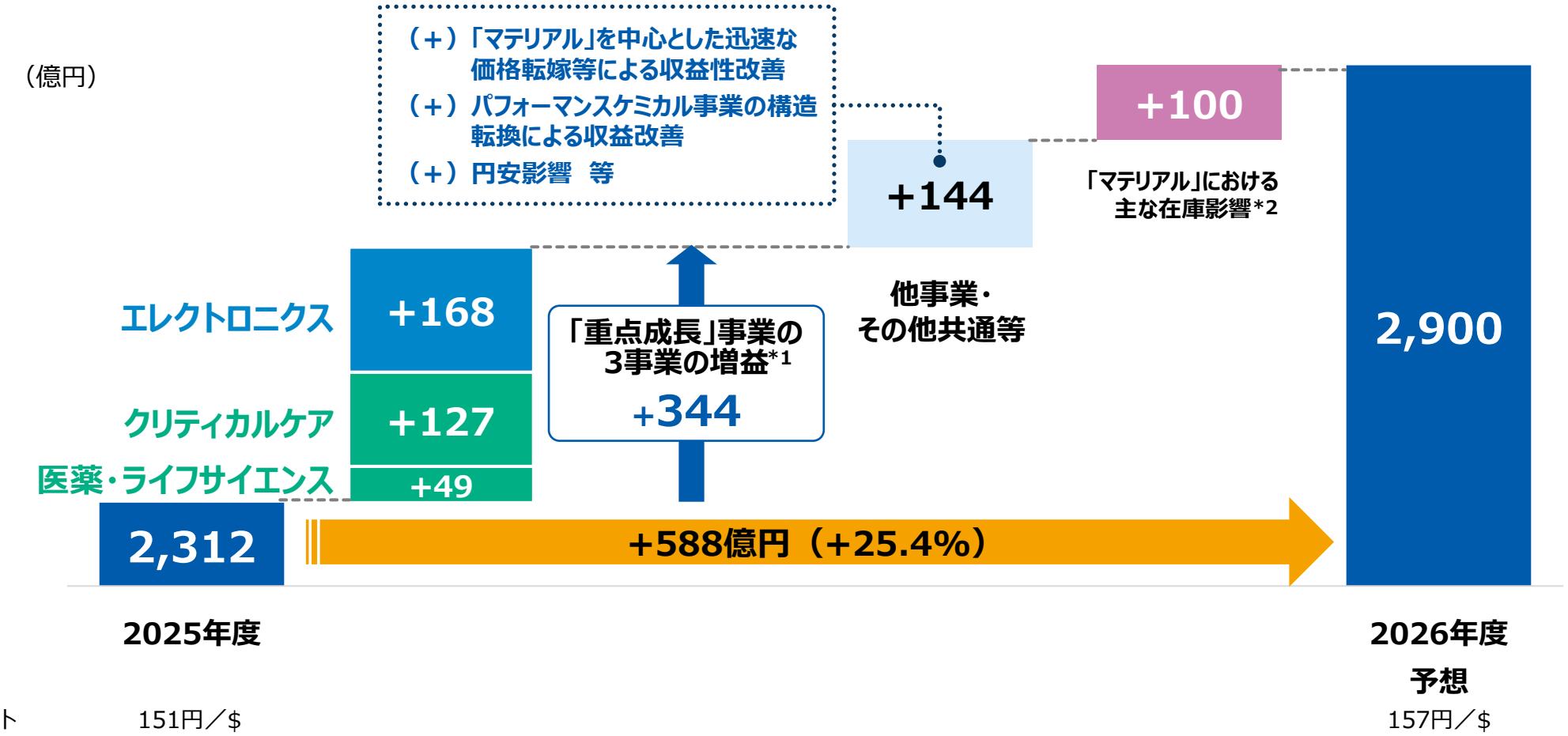
		2025年度			2026年度予想			前期比		2026年度予想（2026年5月発表）	増減率
		上期	下期		上期	下期予想		増減額	増減率		
売上高	（億円）	14,864	15,881	30,745	16,896	17,324	34,220	3,475	+11.3%	32,540	+5.2%
営業利益	（億円）	1,075	1,237	2,312	1,654	1,246	2,900	588	+25.4%	2,480	+16.9%
売上高営業利益率		7.2%	7.8%	7.5%	9.8%	7.2%	8.5%	+1.0%		7.6%	
のれん償却前営業利益	（億円）	1,238	1,412	2,649	1,845	1,435	3,280	631	+23.8%	2,860	+14.7%
EBITDA *1	（億円）	2,029	2,246	4,275	2,726	2,364	5,090	815	+19.1%	4,660	+9.2%
売上高EBITDA率		13.7%	14.1%	13.9%	16.1%	13.6%	14.9%	+1.0%		14.3%	
親会社株主に帰属する当期純利益	（億円）	663	925	1,588	1,022	708	1,730	142	+8.9%	1,600	+8.1%
EPS	（円）	48.79	68.18	116.97	75.94	53.19	129.12	12.15	+10.4%	119.65	+7.9%
のれん償却前EPS	（円）	60.81	81.02	141.83	90.09	67.39	157.48	15.65	+11.0%	148.07	+6.4%
為替・ナフサ前提											
平均為替レート（USドル）		146円	156円	151円	159円	155円	157円			150円	
平均為替レート（ユーロ）		168円	182円	175円	184円	175円	180円			175円	
国産ナフサ価格		64,800円／kl	63,200円／kl	65,300円／kl	108,400円／kl	90,000円／kl	99,200円／kl			-	
1株当たり配当金		20円	22円	42円	24円	24円	48円			44円	

*1　EBITDA＝営業利益＋減価償却費（有形、無形、のれん）

2026年度通期予想（営業利益増減要因）

AsahiKASEI

- 営業利益は前期比で588億円（+25.4%）の増益
- 「重点成長」事業である医薬、クリティカルケア、エレクトロニクスの3事業における主力製品の販売拡大が寄与し、前期比での利益成長を牽引



為替レート　151円／$　　157円／$

*1　ライフサイエンス事業を含む　　*2　エッセンシャルケミカル事業、パフォーマンスケミカル事業における在庫受払差、「マテリアル」における在庫未実現利益の変動

中東情勢による主な影響と対応策

AsahiKASEI

石化市況上昇に伴う原材料価格上昇の影響は、迅速かつ適切な価格転嫁により影響を概ね吸収。上期に発生した在庫受払差によるプラス影響は、**下期にかけて石化市況が徐々に下落することに伴い、通期では前期比+100億円程度で収まる見込み**

「ヘルスケア」「住宅」「マテリアル」の3領域による経営により、**業績下振れへの耐性は高い。**サプライチェーン上の変化や「マテリアル」を中心とする需要の変化については、引き続き注視する

2026年度通期予想における中東情勢影響の前提

- 国産ナフサ価格の上期の実績は108,400円／kl。下期の予想は90,000円／kl
- 原燃料価格上昇に伴う需要減少の影響については、上期は軽微。下期においても軽微と見込む
- 中東市場向けの販売は限定的であり、影響は軽微

セグメント	各セグメントにおける中東情勢の主な影響と対応策
ヘルスケア	• 足元では影響は軽微。中東情勢次第ではサプライチェーンに変化が生じる可能性があるため、市場動向を注視しながら顧客やサプライヤーとのコミュニケーションを適切に図り、適宜対応する
住宅	• 建築請負事業を中心に、資材価格上昇の影響を受けることが見込まれるが、物件の大型化・高付加価値化を推進し、影響の抑制に努める
マテリアル	• 水島のエチレン製造設備および誘導品の工場は通常どおり稼働 • 石化市況上昇に伴う原材料価格上昇の影響については、迅速かつ適切な価格転嫁により影響を概ね吸収。上期に発生した在庫受払差によるプラス影響は、下期にかけて石化市況が徐々に下落することに伴い、通期では前期比+100億円程度で収まる見込み • サプライチェーン上の変化や原燃料価格上昇等に伴う需要の変化については、市場動向を注視しながら顧客やサプライヤーとのコミュニケーションを適切に図り、適宜対応する

2026年度通期予想（セグメント別：前期比）

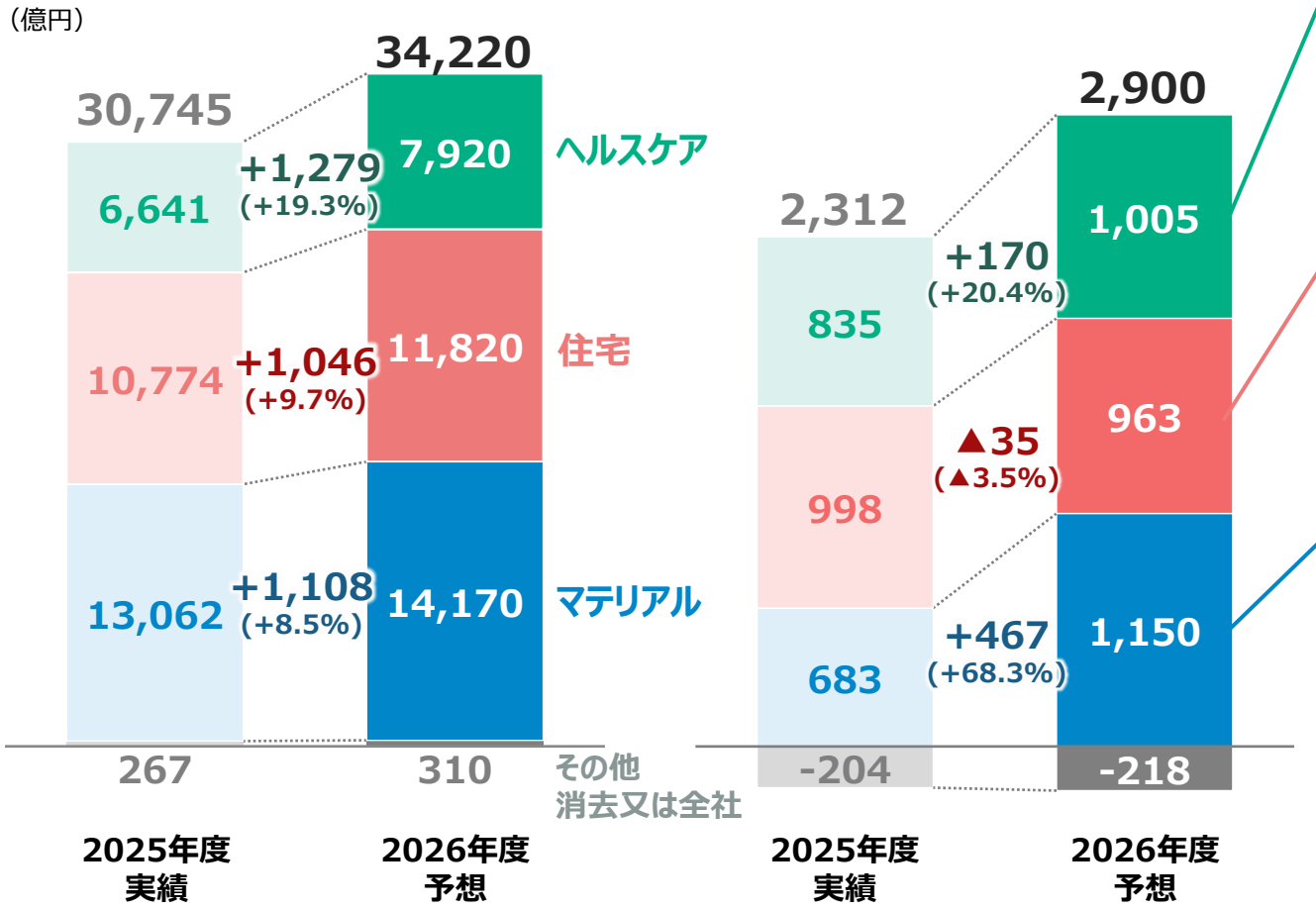
AsahiKASEI

売上高　前期比

+3,475億円（+11.3%）

営業利益　前期比

+588億円（+25.4%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア　+170億円

販管費の増加やAicurisの新規連結等の影響があるが、各事業の主力製品の売上成長や、円安影響により、増益

医薬・ライフサイエンス事業	+49億円
クリティカルケア事業	+127億円

住宅　▲35億円

建築請負事業が資材費や固定費増加を見込むことや、北米事業の需要回復ペースを踏まえ、減益

住宅事業	▲45億円
建材事業	+10億円

マテリアル　+467億円

エレクトロニクス事業の主力製品の販売量増加に加え、各事業における迅速な価格転嫁や円安影響、エッセンシャルケミカル事業等の在庫受払差によるプラス影響等により、増益

エレクトロニクス事業*1	+168億円
カーインテリア事業	+24億円
エナジー＆インフラ事業	▲20億円
コンフォートライフ事業	+12億円
パフォーマンスケミカル事業	+133億円
エッセンシャルケミカル事業	+220億円
マテリアル共通	▲70億円

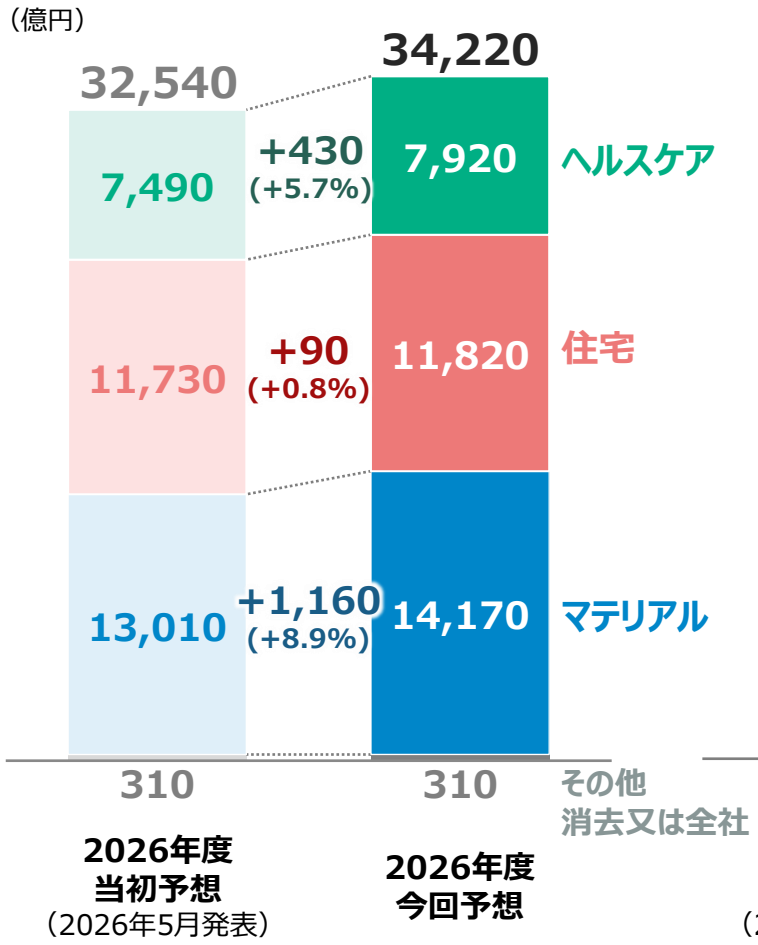
*1　2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

2026年度通期予想（セグメント別：当初（5月発表）予想比）

AsahiKASEI

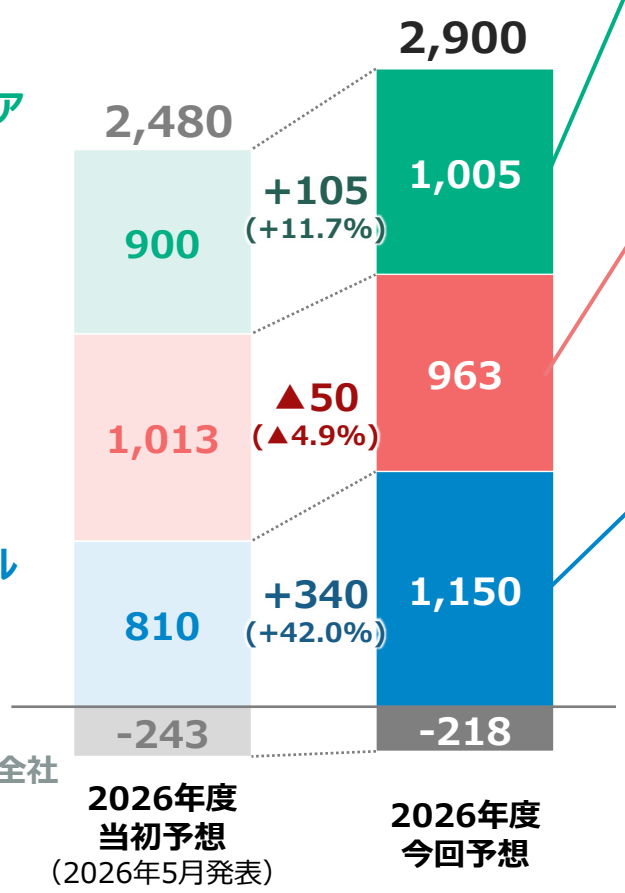
売上高　当初予想比

+1,680億円（+5.2%）



営業利益　当初予想比

+420億円（+16.9%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア　+105億円

医薬事業の研究開発費が当初想定を下回ることに加え、クリティカルケア事業のLifeVestの売上成長や、円安影響等により、上方修正

医薬・ライフサイエンス事業	+78億円
クリティカルケア事業	+28億円

住宅　▲50億円

北米事業の需要回復ペースを踏まえ、下方修正

住宅事業	▲50億円
建材事業	±0億円

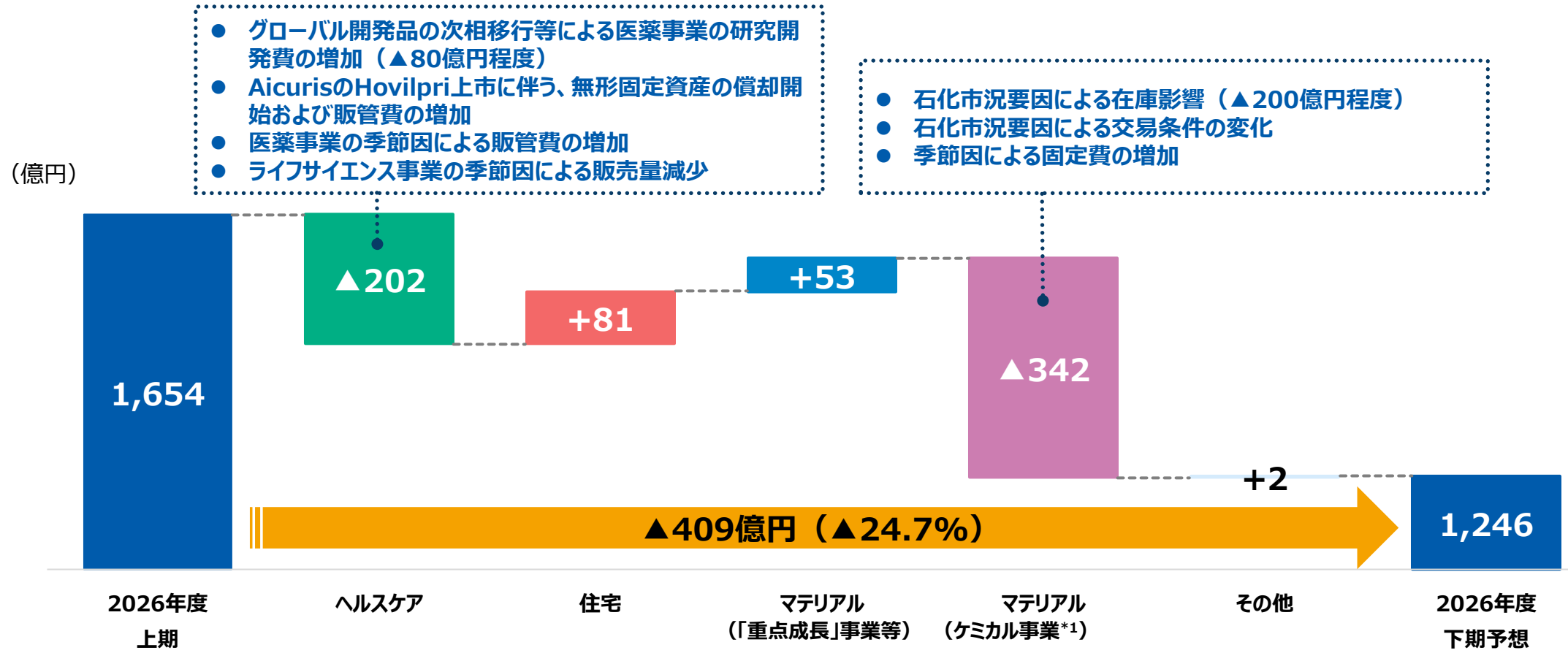
マテリアル　+340億円

エレクトロニクス事業の主力製品の販売量増加に加え、各事業における迅速な価格転嫁や円安影響、エッセンシャルケミカル事業の在庫受払差によるプラス影響等により、上方修正

エレクトロニクス事業	+123億円
カーインテリア事業	+5億円
エナジー＆インフラ事業	+12億円
コンフォートライフ事業	+12億円
パフォーマンスケミカル事業	+72億円
エッセンシャルケミカル事業	+210億円
マテリアル共通	▲94億円

上期から下期の営業利益の変動

- 営業利益は上期から下期にかけて減益となるが、以下の一過性要因や季節因を含んでいる
- 「ヘルスケア」においては、医薬・ライフサイエンス事業で例年どおり下期の季節因の影響を見込むほか、医薬事業では、グローバル開発品の次相移行等による研究開発費や、AicurisのHovilpri上市に伴う費用の増加を見込む
- 「マテリアル」においては、パフォーマンスケミカル事業、エッセンシャルケミカル事業では、石化市況の下落に伴う在庫受払差のマイナス影響の一過性の要因による減益を見込む

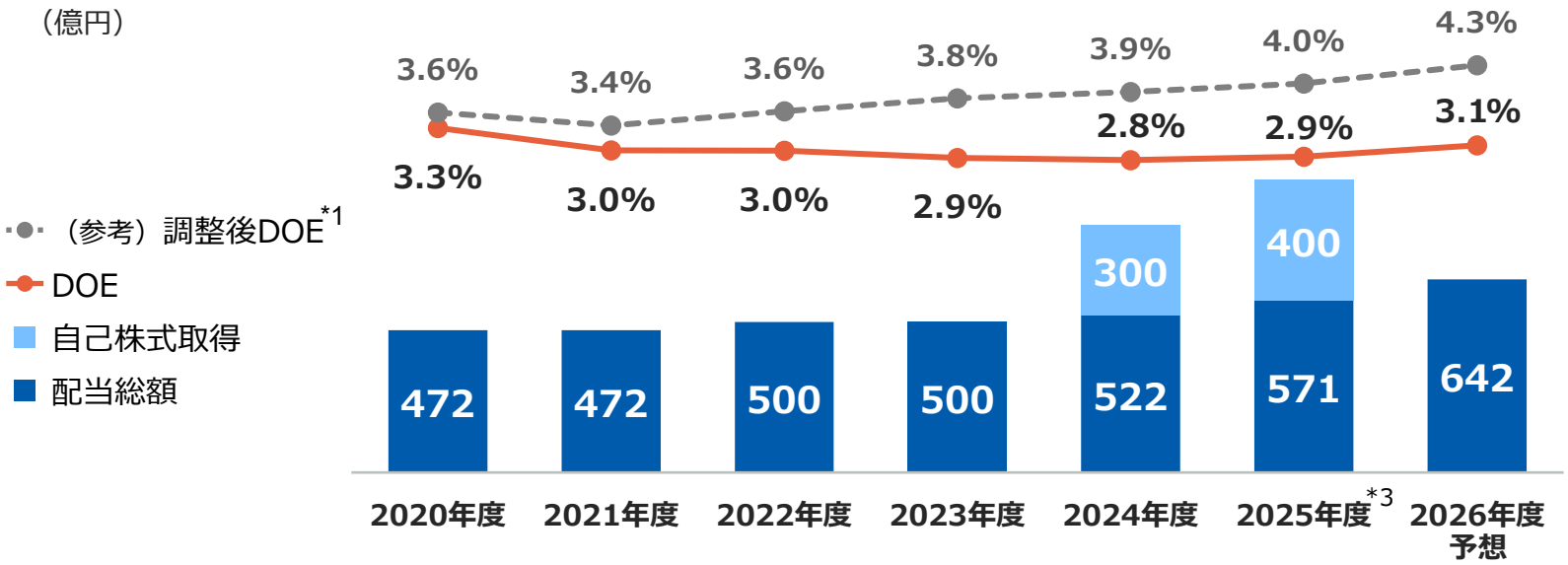


*1 現在のパフォーマンスケミカルとエッセンシャルケミカルに含まれる事業の利益の合計値

株主還元

AsahiKASEI

- 株主還元方針に従い、2026年度の年間配当は**前期比で6円増配となる48円を**予想し、DOE（自己資本配当率）は3.1%となる見込み。**中間配当は24円**とした
- 2025年11月に決定した400億円を上限とする自己株式取得を終了し、取得した自己株式の消却を実行



1株当たり配当金(円)	34	34	36	36	38	42	48
配当性向	59.1%	29.1%	-	113.9%	38.8%	35.9%	37.2%
自己資本	14,675	16,874	16,603	18,134	18,594	20,885	20,953
調整後自己資本（株主資本）*2	13,359	14,594	13,175	13,119	13,668	14,683	15,395

株主還元方針

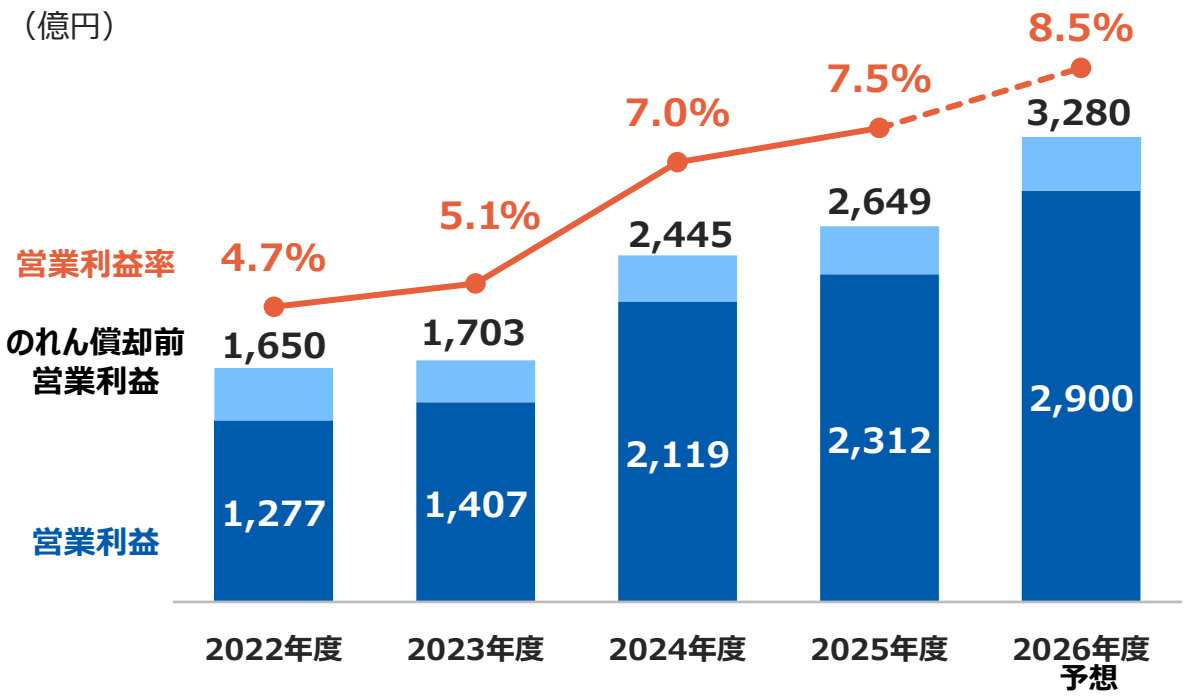
1. 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
2. **DOE3%を目安**とした、中長期的な累進配当を目指す
3. 自己株式取得は資本構成適正化に加え、投資案件やキャッシュフロー、株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

*1 調整後DOE = 配当総額÷調整後自己資本　　*2 調整後自己資本（株主資本） = 自己資本 - その他の資本構成要素
*3 自己株式取得の400億円は2025年11月5日に決議した取得価額の総額であり、実際に取得した金額とは異なる

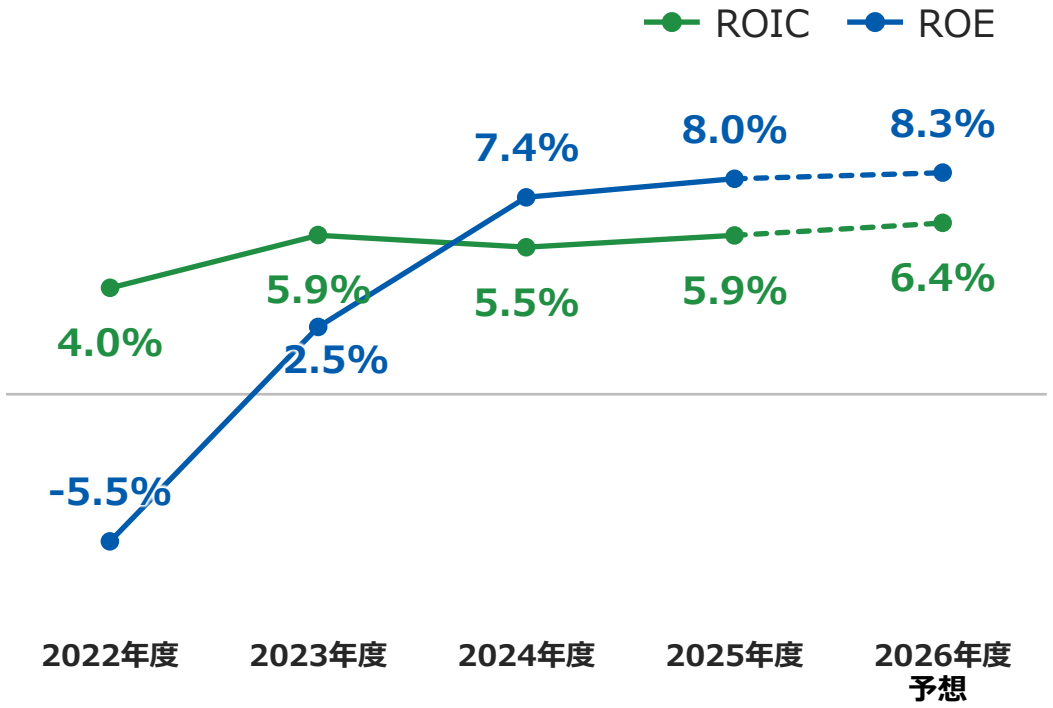
経営指標の推移

営業利益率	販管費の増加や医薬事業におけるAicurisの新規連結影響があるが、「重点成長」事業である医薬事業、クリティカルケア事業、エレクトロニクス事業の売上成長や、「マテリアル」を中心とした迅速な価格転嫁等の収益力強化の効果等により、前期比で改善を見込む
ROIC	税金費用の増加やAicuris買収に伴う有利子負債の増加の一方、引き続き営業利益の成長を見込み、前期比で改善を見込む
ROE	当期純利益の増加を見込み、前期比で改善を見込む

■ 営業利益／営業利益率の推移



■ ROIC*1／ROEの推移



*1 ROIC＝（営業利益－法人税等）÷期中平均投下資本

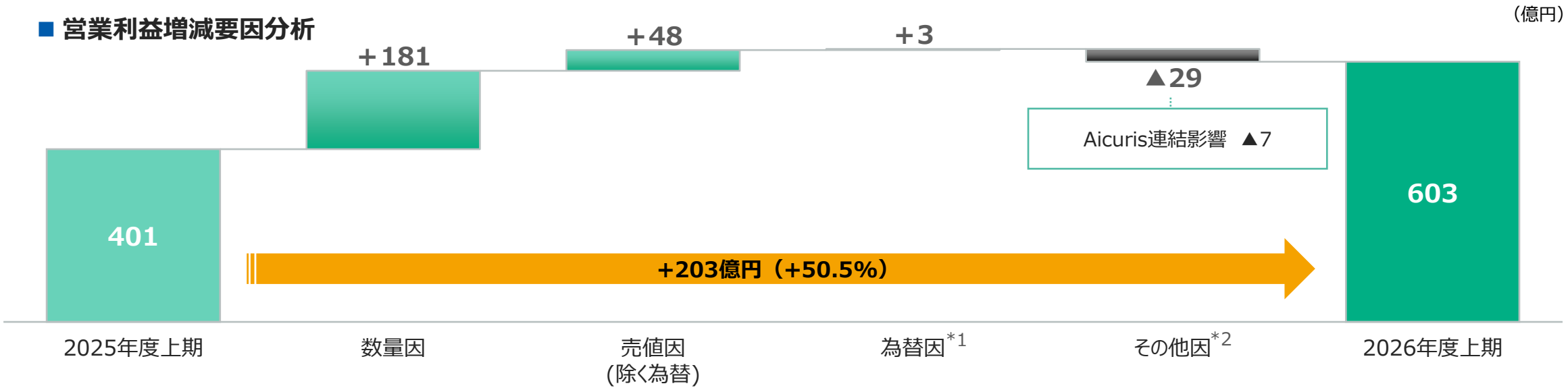
３．セグメント別詳細

ヘルスケア 2026年度上期実績

AsahiKASEI

主力製品の販売量増加による数量因および販売価格の上昇による売値因のプラス効果が、販管費の増加等によるその他因のマイナス影響を上回り、増益

■ 営業利益増減要因分析



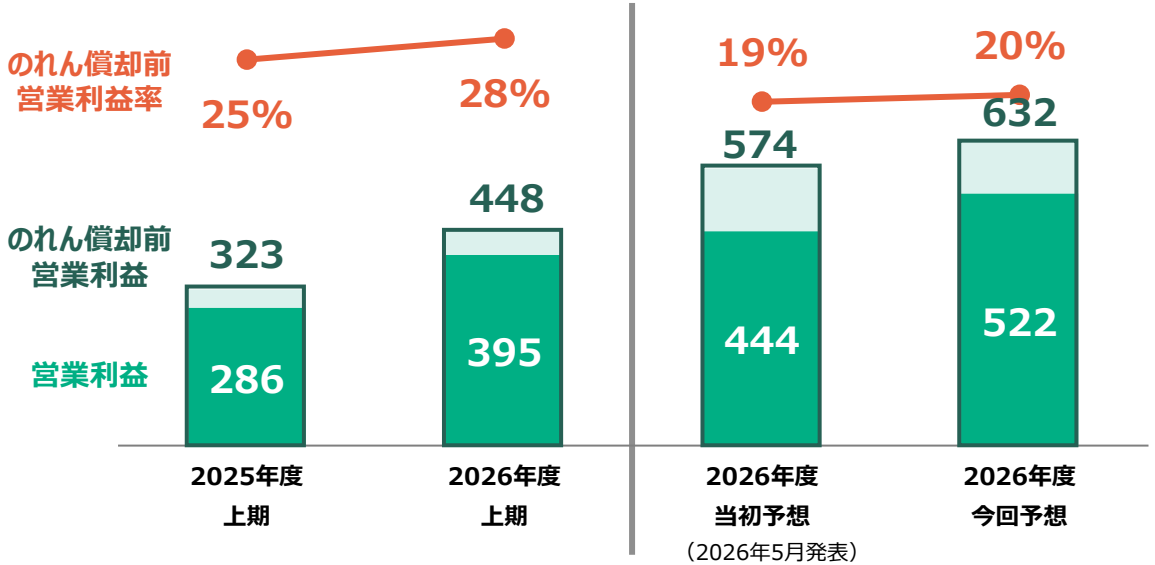
	売上高				営業利益							
									内訳			
	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	数量因	売値因(除く為替)	為替因*1	その他因*2
ヘルスケアセグメント	3,068	**3,892**	824	+26.9%	401	**603**	203	+50.5%	181	48	3	-29
医薬・ライフサイエンス事業	1,276	**1,626**	350	+27.4%	286	**395**	109	+38.2%	72	36	2	0
クリティカルケア事業	1,792	**2,266**	474	+26.5%	115	**211**	95	+82.8%	110	12	1	-28

*1 売値因に関連する為替因　*2 為替換算差、固定費差、ライセンス導入・導出等の一時収益・費用、新規連結 等

医薬・ライフサイエンス事業

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



（2026年5月発表）

■営業利益の主な変動要因

2026年度上期 vs 2025年度上期	● **医薬：**主力製剤の販売量増加や販売価格の上昇に加え、円安影響により、増益 ● **ライフサイエンス：**プラノバの販売量の増加や円安影響により、増益
2026年度今回予想 vs 2026年度当初予想	● **医薬：**Tarpeyoの成長が想定を下回る一方、国内市場での堅調な販売推移に加え、研究開発費が当初想定を下回ることや、円安影響等により、上方修正 ● **ライフサイエンス：**プラノバの販売量が想定を上回ることや円安影響により、上方修正

現中計における取り組み

医薬

重点成長

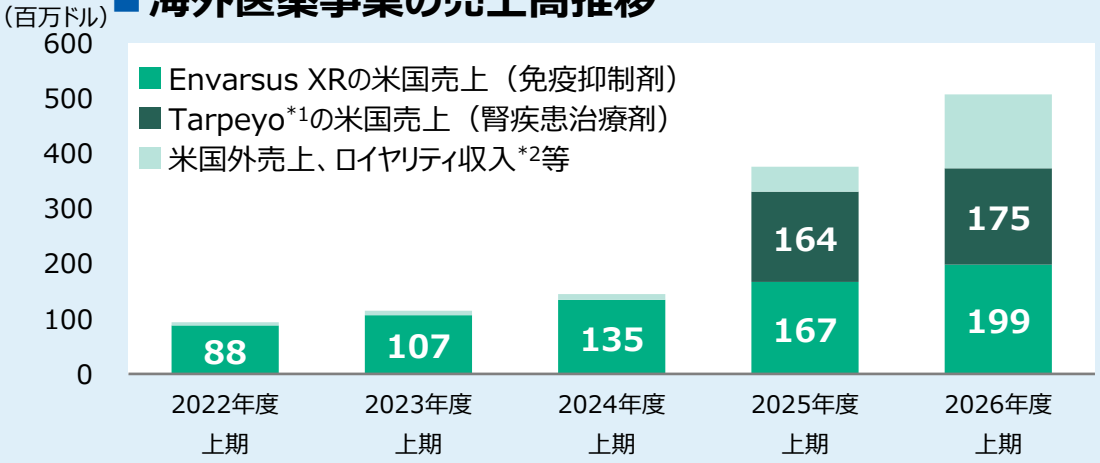
- Envarsus XR（Veloxis）、Tarpeyo（Calliditas）、国内主力製剤の利益成長
- 自己免疫疾患・腎臓疾患・移植・重症感染症の周辺疾患領域にフォーカスした、成長投資の継続（2026年4月Aicuris買収、中計3年間で約400億円のライセンスインを想定）

ライフサイエンス

戦略的育成

- プラノバ（ウイルス除去フィルター）の着実な成長
- Bionova（CDMO事業）の体質強化・戦略再構築

■海外医薬事業の売上高推移



*1 Calliditas新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上
*2 Aicuris新規連結に伴い、2026年5月より当社でPrevymisのロイヤリティ収入を計上

医薬事業の主要医薬品売上高

	（売上高の対象地域、単位）		2025年度 上期	2025年度 年間	2026年度 上期	上期 前年同期比 増減額	上期 前年同期比 増減率
米国事業	Envarsus XR	（米国、百万ドル）	167	330	199	32	+18.9%
	Tarpeyo	（米国、百万ドル）	164	323	175	11	+6.6%
国内事業	テリボン	（国内、億円）	218	445	220	1	+0.6%
	リクラスト	（〃）	6	11	5	-0	-7.4%
	ケブザラ	（〃）	61	126	72	11	+17.8%
	プラケニル	（〃）	11	20	6	-4	-41.0%
	リコモジュリン	（〃）	32	61	32	0	+0.1%
	クレセンバ	（〃）	31	68	44	13	+41.4%
	エムパベリ	（〃）	10	20	8	-2	-15.4%
	ドプテレット	（〃）	1	10	18	17	+1,797.4%

製品名	一般名	薬効・分類	適応症	剤形
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤	免疫抑制剤	腎移植	錠剤
Tarpeyo	ブデソニド放出遅延製剤	腎疾患治療剤	疾患進行のリスクがある原発性IgA腎症	カプセル剤
テリボン	テリパラチド酢酸塩	骨粗鬆症治療剤（副甲状腺ホルモン：PTH）	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
リクラスト	ゾレドロン酸水和物	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤
ケブザラ	サリルマブ（遺伝子組換え）	関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤
プラケニル	ヒドロキシクロロキン硫酸塩	免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ（遺伝子組換え）	血液凝固阻止剤	DIC（汎発性血管内血液凝固症）	注射剤
クレセンバ	イサブコナゾニウム硫酸塩	深在性真菌症治療剤	アスペルギルス症、ムーコル症、クリプトコックス症	カプセル剤、注射剤
エムパベリ	ペグセタコプラン皮下注製剤	補体（C3）阻害剤	発作性夜間ヘモグロビン尿症	注射剤
ドプテレット	アバトロンボパグマレイン酸塩錠	トロンボポエチン受容体作動薬	持続性及び慢性免疫性血小板減少症 等	錠剤

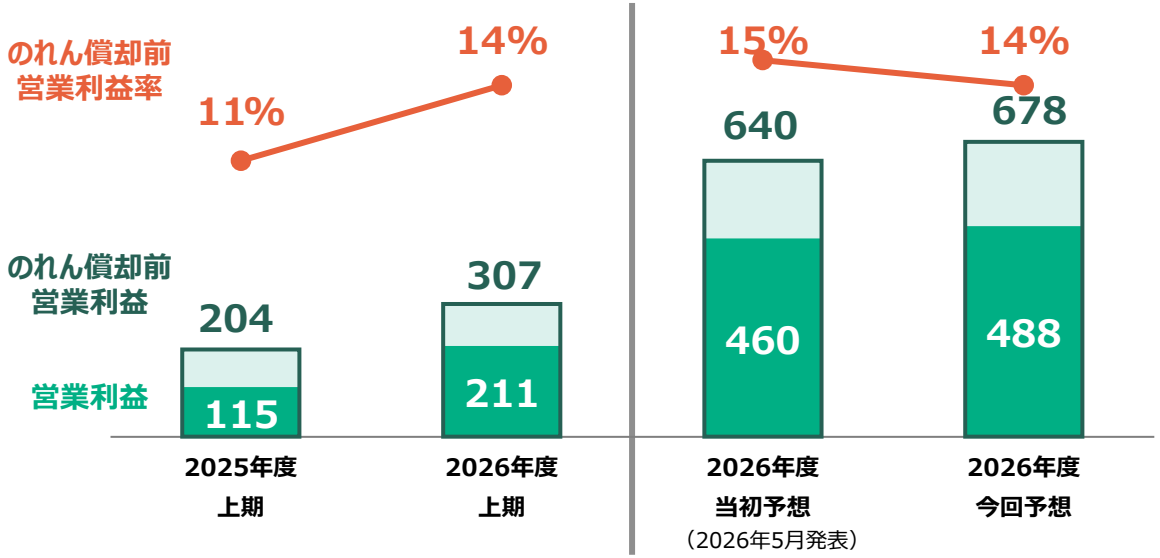
医薬事業の研究開発状況

		開発コードおよび製品名（一般名）	適応症	起源	開発	備考（地域他）
国内	フェーズⅢ	TA799 （アプラグルチド）	短腸症候群	導入	他社	日本におけるフェーズⅠは 当社が実施
	フェーズⅢ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	効能追加 （日米共同フェーズⅠ完了）
	フェーズⅢ	MN-10-T （テリパラチド塩酸塩）	骨折の危険性の高い 骨粗鬆症	自社	自社	本剤を24ヵ月を超えて投与した際の有効性/安全性の検討
	フェーズⅡ	AK1830	変形性関節症に伴う疼痛	導入	自社	
	フェーズⅡ		慢性腰痛症に伴う疼痛			
	フェーズⅠ	AK1910	自己免疫疾患	導入	自社	
	フェーズⅠ	AK1960	難治性慢性腎疾患および その他の難治性疾患	導入	自社	
	フェーズⅠ	AK1940	自己免疫疾患	自社 (共同開発)	自社	
海外	**承認済み （年内上市予定）**	Hovilpri （プリテリビル）	免疫不全患者における アシクロビル耐性を示すHSV 感染治療	自社 （Aicuris）	自社	米国他
	フェーズⅢ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	凝固異常を伴う 重症敗血症	自社	自社	米国・欧州他
	フェーズⅡ	VEL-101 （ペグリゼプルメント）	臓器移植	導入	自社	米国他
	フェーズⅡ	AIC468	腎移植患者における BKウイルス感染	導入	自社	米国他

クリティカルケア事業

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度上期 vs 2025年度上期	● **ACT**：販管費や製造コストが上昇したが、2025年9月に上市した除細動器の新製品の販売拡大や価格改定により、増益 ● **CMS**：LifeVestの新規患者数の増加や患者一人当たりの収入増加により、増益 ● **睡眠時無呼吸症診断デバイス**：販売量の増加により、増益
2026年度今回予想 vs 2026年度当初予想	● **ACT**：概ね想定どおり ● **CMS**：LifeVestの新規患者数の増加に加え、円安影響により、上方修正 ● **睡眠時無呼吸症診断デバイス**：販売量が想定を上回り、上方修正

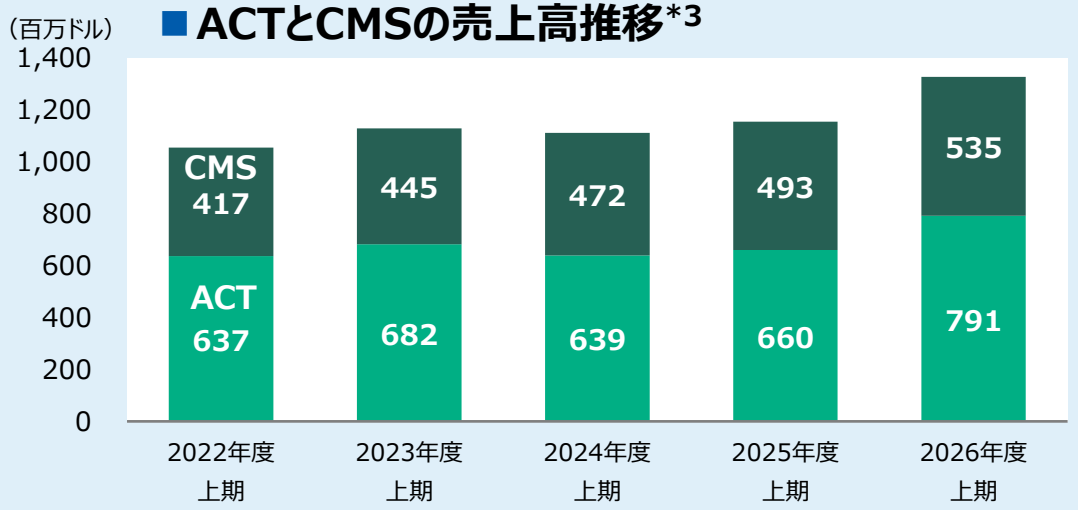
現中計における取り組み

クリティカルケア

重点成長

- ACT[*1]における除細動器やAED等のシェア拡大による着実な成長
- CMS[*2]における、「LifeVest」の潜在市場への浸透
- 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス（Itamar、Respicardia）等の新規機器の需要創出、および収益拡大

■ACTとCMSの売上高推移[*3]



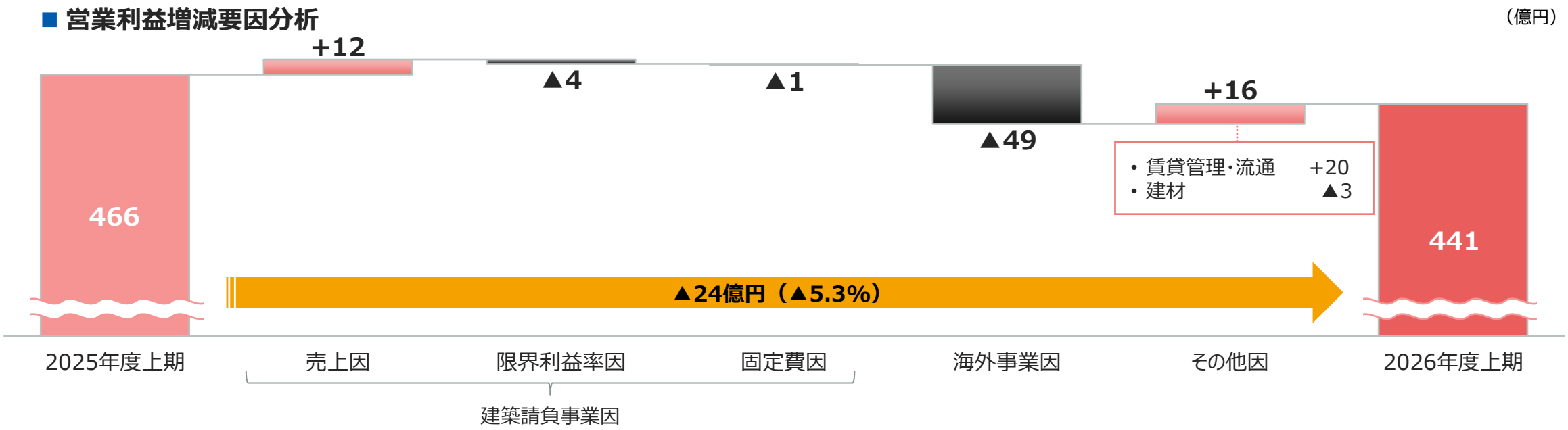
*1　Acute Care Technology：除細動器、AED、心肺蘇生関連、体温管理、ソフトウェアソリューション等　*2　Cardiac Management Solutions：着用型自動除細動器「LifeVest」、心疾患診断・管理等
*3　2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

2026年度上期実績

AsahiKASEI

建築請負事業は資材費上昇の中でも売上因により増益となったが、北米事業の需要減少や価格対応等による海外事業因のマイナスにより、減益

■ 営業利益増減要因分析



	売上高				営業利益								
									内訳				
									建築請負事業			海外事業因	その他因
	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	売上因	限界利益率因	固定費因		
住宅セグメント	5,265	**5,628**	364	+6.9%	466	**441**	-24	-5.3%	12	-4	-1	-49	16
住宅事業	5,051	**5,423**	372	+7.4%	438	**417**	-21	-4.9%	12	-4	-1	-49	19*1
建材事業	213	**205**	-8	-3.8%	27	**24**	-3	-11.7%	-	-	-	-	-3

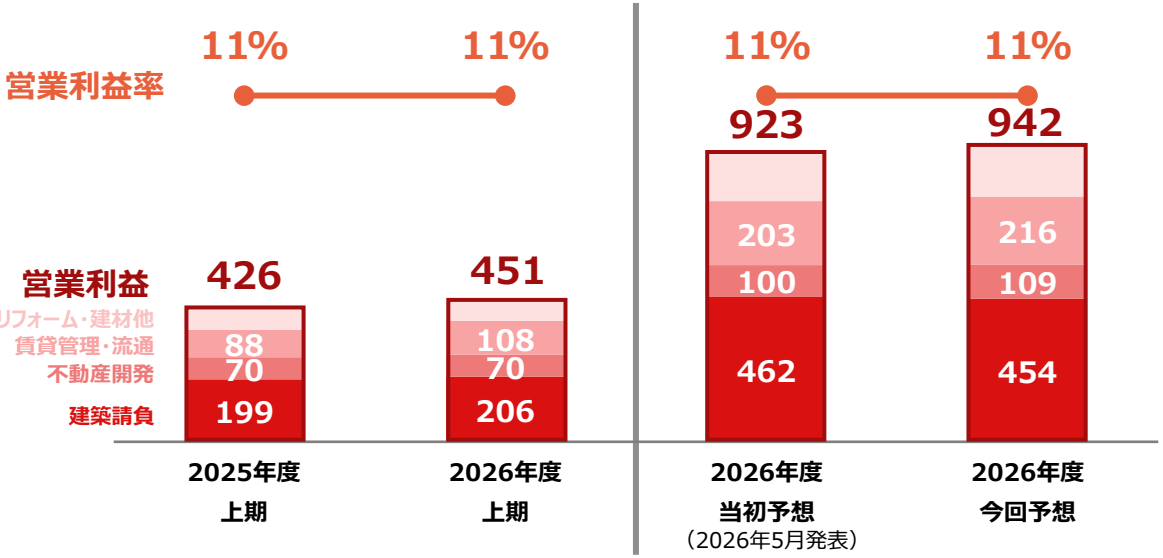
*1 不動産開発、リフォーム、賃貸管理・不動産流通、その他

住宅

国内住宅（建築請負、不動産開発、賃貸管理・不動産流通、リフォーム、建材）

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	● **建築請負**：資材費上昇の影響があったが、物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇により、増益 ● **不動産開発**：分譲マンションの販売戸数が増加したが、物件の構成差により、横ばい ● **賃貸管理・不動産流通**：管理戸数の堅調な増加や、賃料改定により、増益
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	● **建築請負**：概ね想定どおり ● **不動産開発**：分譲マンションの販売の期ずれの一方、一部資産売却により、上方修正 ● **賃貸管理・不動産流通**：管理戸数の堅調な増加や、賃料改定により、上方修正

現中計における取り組み

不動産開発

戦略的育成

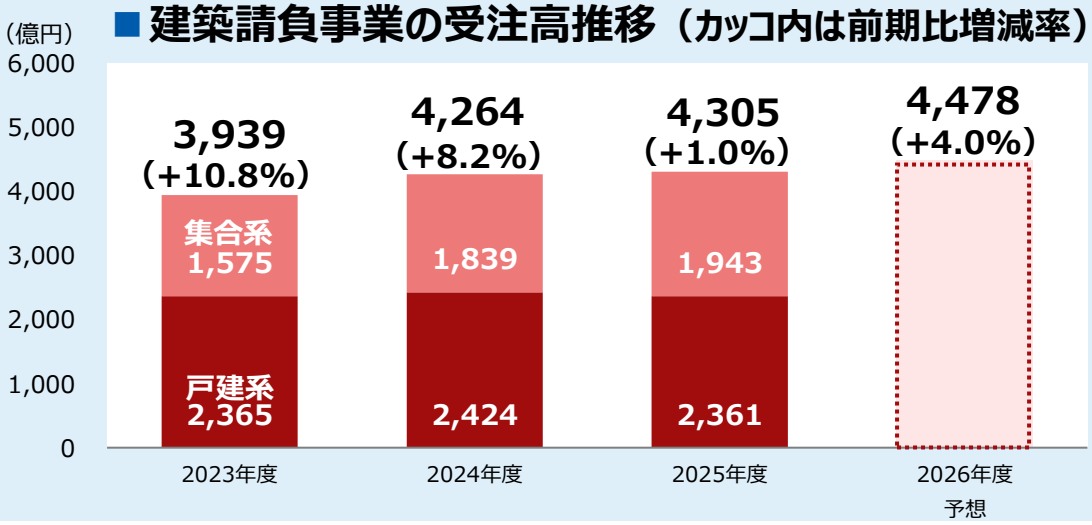
- 土地仕入れ力強化および土地を活用したビジネスの拡大

建築請負、賃貸管理・不動産流通、リフォーム、建材

収益基盤維持・拡大

- 建築請負事業における、大型化・高付加価値化、集合住宅事業を拡大することによる、収益力の強化

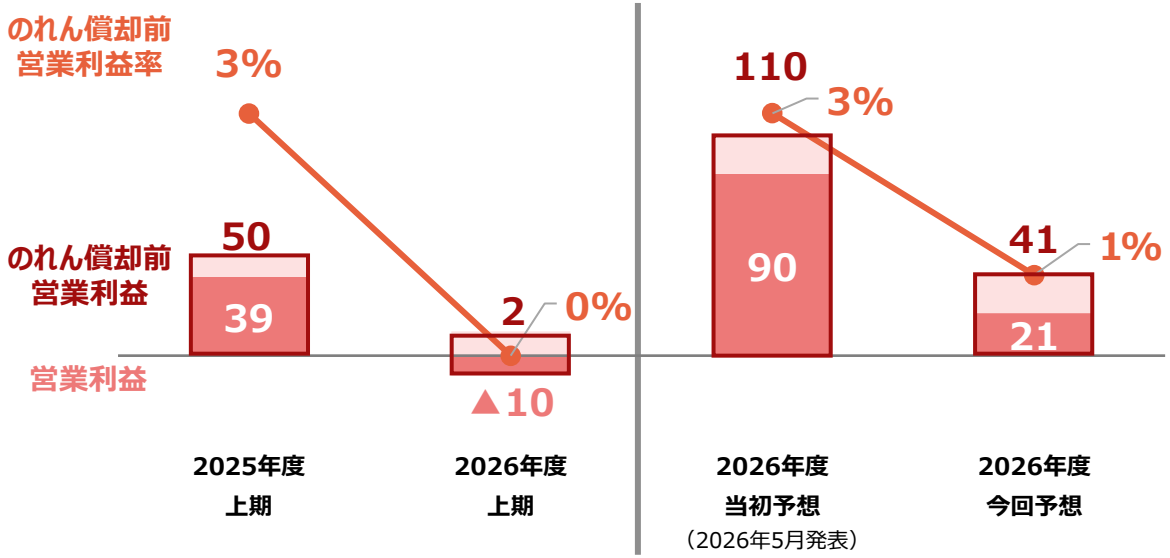
■建築請負事業の受注高推移（カッコ内は前期比増減率）



海外住宅

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度上期 vs 2025年度上期	● **北米**：住宅需要の減少に伴う数量減少や価格対応等により、減益 ● **豪州**：前期の緩やかな住宅需要の回復を受けて数量が増加したため、増益
2026年度今回予想 vs 2026年度当初予想	● **北米**：住宅需要の回復ペースを踏まえ、下方修正 ● **豪州**：建売住宅の販売増加や、円安影響により、上方修正

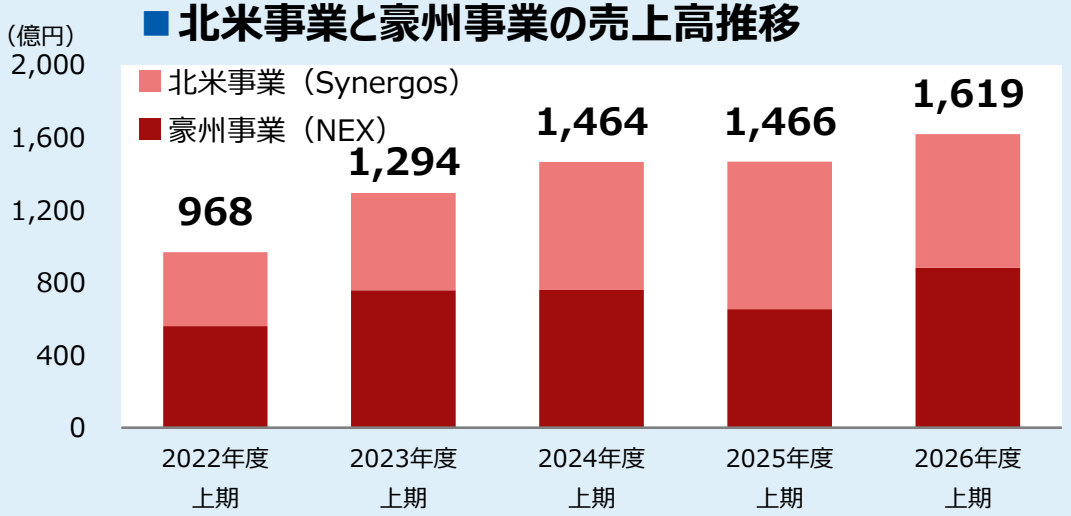
現中計における取り組み

海外住宅

重点成長

- 北米事業における、サプライヤーを水平統合することによって建築工程の中核となる業種を統合し、工期短縮や高品質な住まいの提供を目指すビジネスモデル（Synergosモデル）の強化。エリア拡大における持続的成長
- 豪州事業における、さらなるシェア拡大、および業務プロセス改善による収益性・資本効率の改善

■北米事業と豪州事業の売上高推移



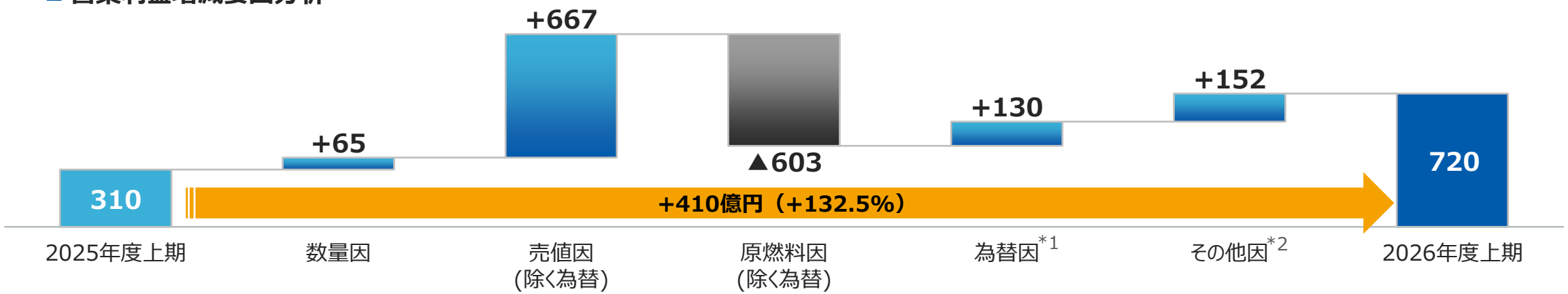
マテリアル 2026年度上期実績

AsahiKASEI

エレクトロニクス事業を中心とした販売堅調による数量因のプラスに加え、中東情勢影響に伴う原燃料因を、価格転嫁による売値因や円安による為替因が上回ったこと、エッセンシャルケミカル事業における在庫受払差の影響等によるその他因により、増益

■ 営業利益増減要因分析

（億円）



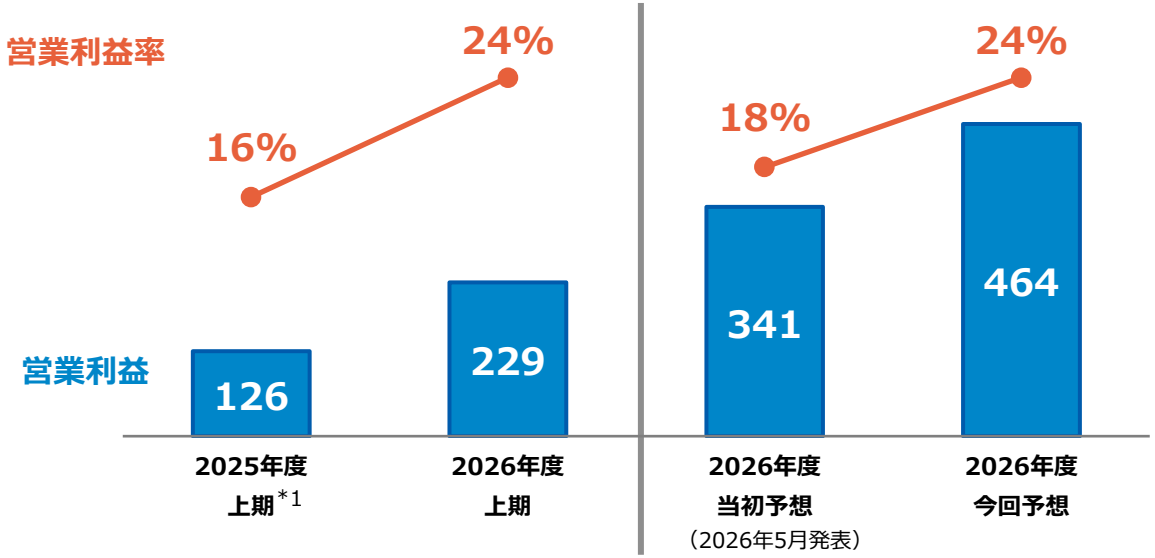
	売上高				営業利益								
									内訳				
	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	2025年度上期	**2026年度上期**	増減額	増減率	数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因*1	その他因*2
マテリアルセグメント	6,378	**7,245**	866	+13.6%	310	**720**	410	+132.5%	65	667	-603	130	152
エレクトロニクス事業*4	788	**935**	148	+18.7%	126	**229**	102	+81.2%	58	23	-3	33	-8
カーインテリア事業	792	**868**	76	+9.7%	42	**60**	18	+43.9%	-7	20	2	8	-5
エナジー＆インフラ事業*4	631	**465**	-166	-26.3%	1	**-21**	-22	-	13	-4	-14	15	-33
コンフォートライフ事業	1,248	**1,399**	151	+12.1%	82	**98**	15	+18.7%	16	10	-7	13	-17
パフォーマンスケミカル事業	1,124	**1,196**	72	+6.4%	27	**161**	133	+486.2%	1	99	-67	33	68
エッセンシャルケミカル事業	1,760	**2,341**	581	+33.0%	26	**243**	217	+822.8%	-16	519	-549	28	236*3
マテリアル共通*4	37	**41**	4	+10.3%	4	**-50**	-54	-	-	-	35*3	-	-89*3

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因　*2 為替換算差、固定費差、在庫影響 等　*3 エッセンシャルケミカル事業の営業利益の「その他因」には社内売値差が含まれているが、マテリアル全体としては「原燃料因」に含まれるものであるため、要因分析の補正として、相当する額をマテリアル共通の「原燃料因」と「その他因」にそれぞれプラスとマイナスで含めて表示している　*4 2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

マテリアル エレクトロニクス

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	● **電子材料**：AI用途を中心に主力製品の販売が堅調に推移したことや、円安影響により、増益 ● **電子部品**：EV用電流センサ等の販売量が伸びたことや、円安影響により、増益（カメラモジュール向け製品の販売量は、メモリ不足によるスマートフォンの需要への影響により、減少）
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	● **電子材料**：AI用途向けの関連製品の需要が当初想定以上に伸びることや、価格転嫁の推進により、上方修正 ● **電子部品**：EV用電流センサ等の販売量が引き続き堅調に推移することによる製品構成差の改善により、上方修正

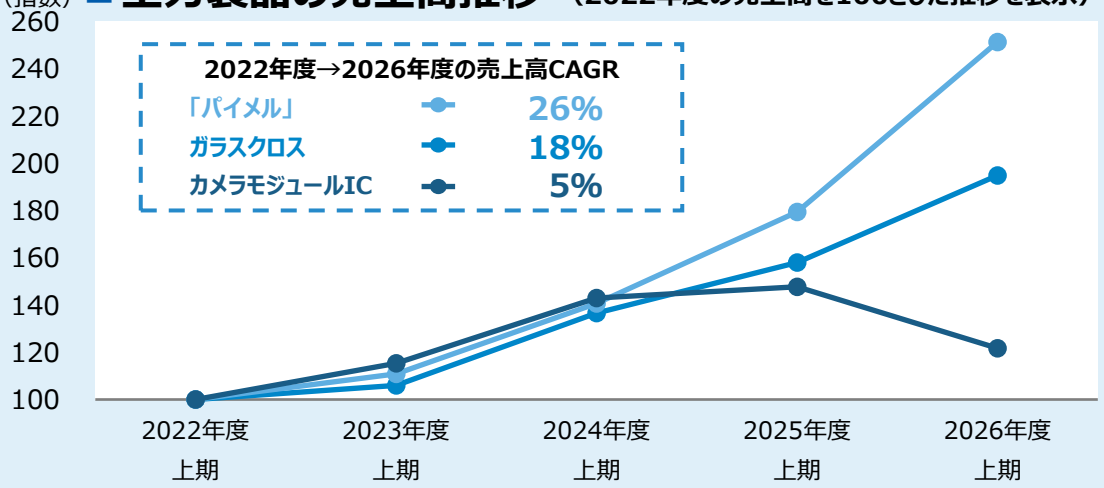
現中計における取り組み

エレクトロニクス

重点成長

- 電子材料における、半導体チップ、基板・実装工程材料での実績をベースとした“先端半導体パッケージ市場”に最適な材料の提案
- 特に、パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）は、拡大するAIサーバー向け等最先端半導体の旺盛な需要に合わせて、生産能力を増強
- 新規電子材料の開発および事業化の推進

■主力製品の売上高推移 （2022年度の売上高を100とした推移を表示）

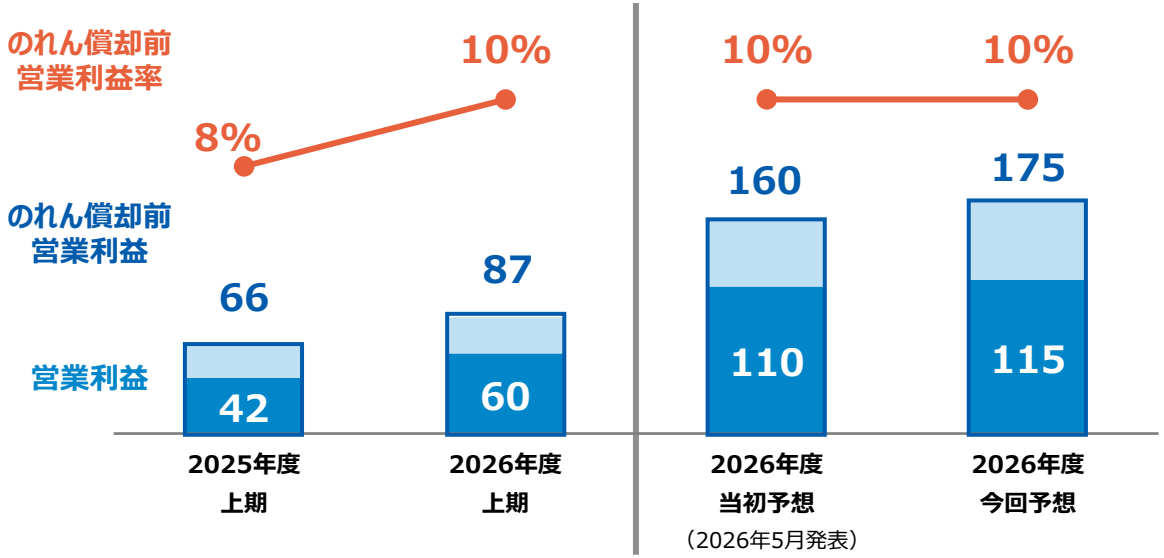


*1 2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

マテリアル カーインテリア

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度上期 vs 2025年度上期	↗	欧州を中心に販売が好調に推移したことや、円安影響等により、増益
2026年度今回予想 vs 2026年度当初予想	↗	欧州を中心に販売が堅調に推移していることに加え、円安影響等により、上方修正

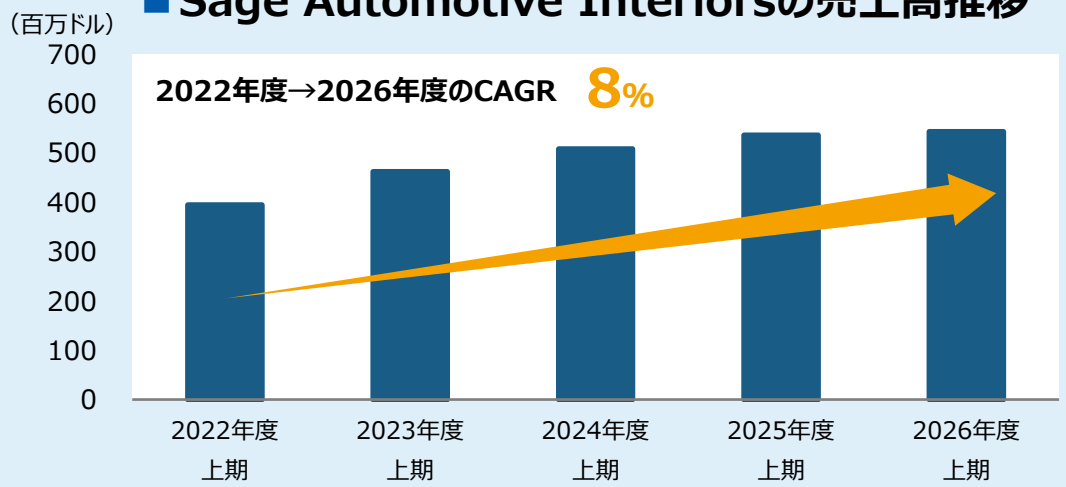
現中計における取り組み

カーインテリア

収益基盤維持・拡大

- 顧客ニーズに合わせた商品ラインナップと革新的なデザイン、先進の加飾・後加工技術を強みとしたソリューション型事業としての着実な利益成長
- 米国、欧州、日本、中国と地域ごとに適地生産体制を整備し、プラットフォーム構築を推進

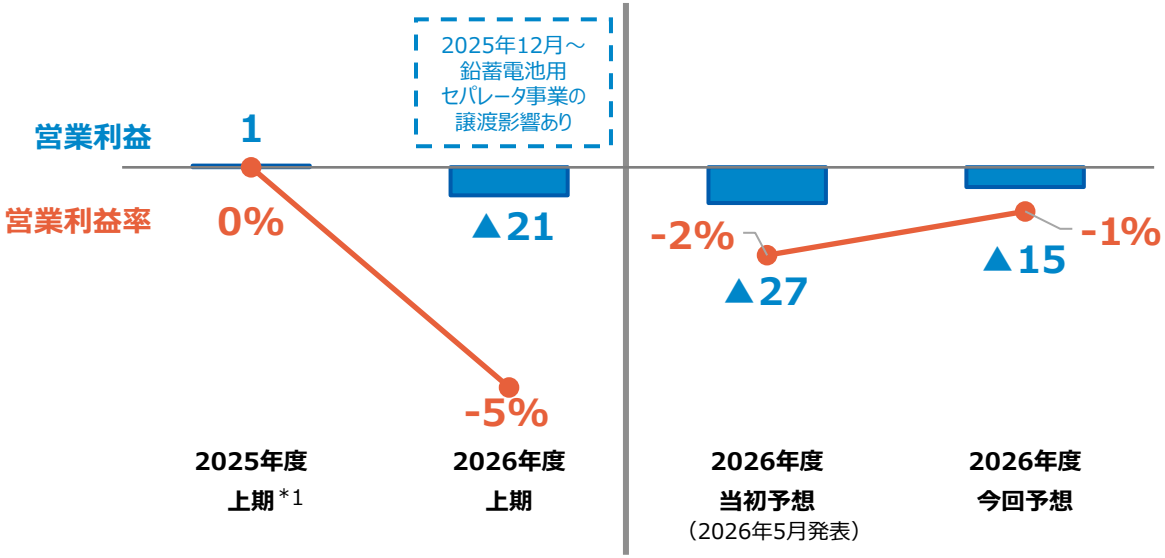
■Sage Automotive Interiorsの売上高推移



マテリアル エナジー＆インフラ

AsahiKASEI

■営業利益の推移（億円）



■営業利益の主な変動要因

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	● **セパレータ**：LIB用セパレータの販売量は増加したが、鉛蓄電池用セパレータ事業の譲渡影響に加え、ハイポア事業における用途構成差、拡販に伴う設備稼働による固定費増加等により、減益 ● **イオン交換膜**：販売量の減少により、減益
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	● **セパレータ**：ハイポア事業は当初予想並みを見込む一方、ポリポア事業における販売量の増加により、上方修正（通期のEBITDAは黒字化を見込む） ● **イオン交換膜**：原材料価格上昇による影響があるものの、円安影響等により、想定どおり

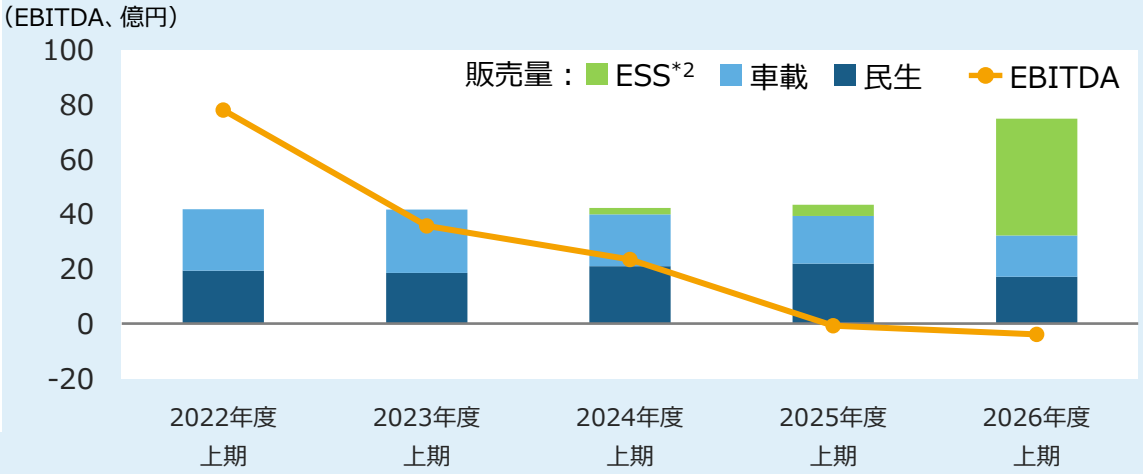
現中計における取り組み

エナジー＆インフラ

戦略的育成

- セパレータ事業において、ESS用途への拡販等、将来に向けて安定的な収益が得られる販売ポートフォリオを確立。カナダ工場の稼働は、需要動向を踏まえ、利益最大化に向けて適切に稼働時期をコントロール（投資決定時の当初計画から1.5～2年の稼働延期を想定）
- イオン交換膜法食塩電解事業の拡大に向けた生産能力増強、および長年培ってきた事業基盤をベースとしたソリューション型事業としての安定的な利益成長。蓄積した事業基盤を、アルカリ水電解水素製造のビジネスへ展開

■ハイポア事業の販売量およびEBITDA推移



*1 2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

*2 Energy Storage System（エネルギー貯蔵システム）、データセンター関連向けを含む

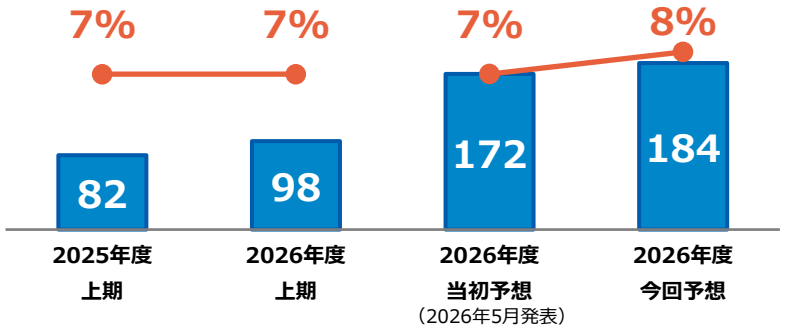
マテリアル　コンフォートライフ／パフォーマンスケミカル／エッセンシャルケミカル

AsahiKASEI

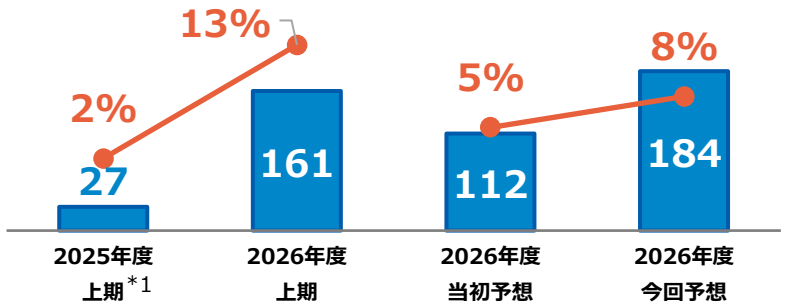
■営業利益の推移（億円）

営業利益　営業利益率

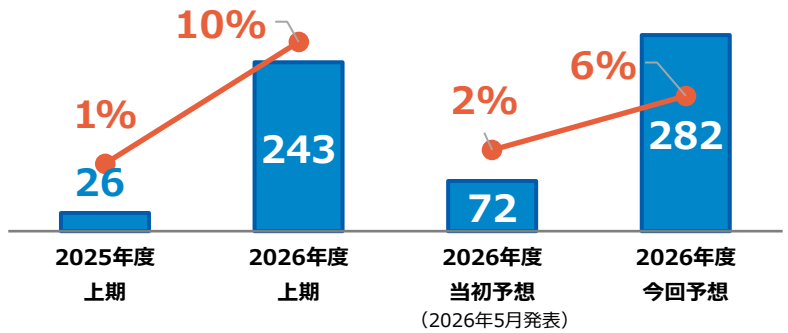
収益基盤維持・拡大
コンフォートライフ



収益改善・事業モデル転換
パフォーマンスケミカル



収益改善・事業モデル転換
エッセンシャルケミカル



■営業利益の主な変動要因

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	高機能マテリアル事業における販売量増加や、円安影響により、増益
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	消費財事業の価格転嫁等により、上方修正

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	価格転嫁の推進による交易条件の改善や、構造転換による利益改善、円安影響により、増益
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	価格転嫁の推進による交易条件の改善や、在庫受払差の影響、円安影響等により、上方修正

2026年度 上期 vs 2025年度 上期	石化市況の上昇による在庫受払差の影響に加え、前期の定期修理による影響が解消され、増益
2026年度 今回予想 vs 2026年度 当初予想	石化市況の上昇による在庫受払差の影響等により、上方修正

*1　2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

売上高詳細

AsahiKASEI

（億円）

	2025年度 上期	2025年度 下期	2025年度	2026年度 上期	2026年度 下期予想	2026年度 予想	上期 前年同期比 増減率	通期 前期比 増減率	2026年度 予想（2026年5月発表）	当初予想比 増減率
ヘルスケアセグメント	**3,068**	**3,573**	**6,641**	**3,892**	**4,028**	**7,920**	**+26.9%**	**+19.3%**	**7,490**	**+5.7%**
医薬・ライフサイエンス事業	1,276	1,323	2,599	1,626	1,574	3,200	+27.4%	+23.1%	3,090	+3.6%
医薬事業	996	1,050	2,045	1,266	1,264	2,530	+27.1%	+23.7%	2,450	+3.3%
ライフサイエンス事業	281	273	554	360	310	670	+28.4%	+20.9%	640	+4.7%
クリティカルケア事業	1,792	2,250	4,042	2,266	2,454	4,720	+26.5%	+16.8%	4,400	+7.3%
住宅セグメント	**5,265**	**5,509**	**10,774**	**5,628**	**6,192**	**11,820**	**+6.9%**	**+9.7%**	**11,730**	**+0.8%**
住宅事業	5,051	5,292	10,343	5,423	5,877	11,300	+7.4%	+9.3%	11,260	+0.4%
建築請負事業	2,112	2,303	4,416	2,135	2,445	4,580	+1.1%	+3.7%	4,510	+1.6%
不動産開発事業	251	235	486	339	201	540	+34.9%	+11.0%	620	-12.9%
賃貸管理・流通事業	905	970	1,875	990	1,070	2,060	+9.4%	+9.9%	2,035	+1.2%
リフォーム事業	300	329	629	332	368	700	+10.7%	+11.3%	720	-2.8%
海外住宅事業	1,466	1,427	2,893	1,619	1,771	3,390	+10.4%	+17.2%	3,360	+0.9%
その他	17	28	45	8	22	30	-53.3%	-33.3%	15	+98.7%
建材事業	213	218	431	205	315	520	-3.8%	+20.7%	470	+10.6%
マテリアルセグメント	**6,378**	**6,684**	**13,062**	**7,245**	**6,925**	**14,170**	**+13.6%**	**+8.5%**	**13,010**	**+8.9%**
エレクトロニクス事業*1	788	852	1,640	935	1,025	1,960	+18.7%	+19.5%	1,880	+4.3%
カーインテリア事業	792	865	1,657	868	852	1,720	+9.7%	+3.8%	1,680	+2.4%
エナジー＆インフラ事業	631	648	1,279	465	665	1,130	-26.3%	-11.7%	1,100	+2.7%
コンフォートライフ事業	1,248	1,389	2,636	1,399	971	2,370	+12.1%	-10.1%	2,300	+3.0%
パフォーマンスケミカル事業	1,124	1,100	2,224	1,196	1,254	2,450	+6.4%	+10.2%	2,290	+7.0%
エッセンシャルケミカル事業	1,760	1,796	3,556	2,341	2,119	4,460	+33.0%	+25.4%	3,680	+21.2%
マテリアル共通*1	37	33	70	41	39	80	+10.3%	+14.0%	80	±0.0%
その他	152	115	267	131	179	310	-14.2%	+16.0%	310	±0.0%
合　計	**14,864**	**15,881**	**30,745**	**16,896**	**17,324**	**34,220**	**+13.7%**	**+11.3%**	**32,540**	**+5.2%**

*1　2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

営業利益詳細

AsahiKASEI

（億円）

	2025年度 上期	2025年度 下期	2025年度	2026年度 上期	2026年度 下期予想	2026年度 予想	上期 前年同期比 増減率	通期 前期比 増減率	2026年度 予想（2026年5月発表）	当初予想比 増減率
ヘルスケアセグメント	**401**	**434**	**835**	**603**	**402**	**1,005**	**+50.5%**	**+20.4%**	**900**	**+11.7%**
医薬・ライフサイエンス事業	286	187	473	395	127	522	+38.2%	+10.3%	444	+17.6%
クリティカルケア事業	115	246	361	211	277	488	+82.8%	+35.0%	460	+6.1%
住宅セグメント	**466**	**532**	**998**	**441**	**522**	**963**	**-5.3%**	**-3.5%**	**1,013**	**-4.9%**
住宅事業	438	506	945	417	483	900	-4.9%	-4.8%	950	-5.3%
建築請負事業	199	280	479	206	248	454	+3.9%	-5.2%	462	-1.6%
不動産開発事業	70	37	107	70	39	109	+0.2%	+2.2%	100	+9.1%
賃貸管理・流通事業	88	101	189	108	108	216	+23.3%	+14.6%	203	+6.2%
リフォーム事業	31	40	72	31	50	81	-0.6%	+13.5%	88	-7.6%
海外住宅事業	39	35	74	-10	31	21	-	-71.6%	90	-76.6%
その他	12	13	25	11	7	19	-1.9%	-26.1%	7	+158.1%
建材事業	27	26	53	24	39	63	-11.7%	+19.1%	63	±0.0%
マテリアルセグメント	**310**	**374**	**683**	**720**	**430**	**1,150**	**+132.5%**	**+68.3%**	**810**	**+42.0%**
エレクトロニクス事業*1	126	170	296	229	235	464	+81.2%	+56.8%	341	+36.1%
カーインテリア事業	42	49	91	60	55	115	+43.9%	+26.9%	110	+4.5%
エナジー＆インフラ事業*1	1	4	5	-21	6	-15	-	-	-27	-
コンフォートライフ事業	82	90	172	98	86	184	+18.7%	+6.9%	172	+7.0%
パフォーマンスケミカル事業*1	27	23	51	161	23	184	+486.2%	+262.4%	112	+64.3%
エッセンシャルケミカル事業	26	36	62	243	39	282	+822.8%	+353.3%	72	+291.7%
マテリアル共通*1	4	2	6	-50	-14	-64	-	-	30	-
その他	21	18	39	10	19	29	-54.0%	-26.3%	31	-6.5%
消去又は全社	-122	-121	-243	-119	-128	-247	-	-	-274	-
合　計	**1,075**	**1,237**	**2,312**	**1,654**	**1,246**	**2,900**	**+54.0%**	**+25.4%**	**2,480**	**+16.9%**

*1　2025年度の実績について、2026年度の組織変更を反映したマテリアル共通と各事業間での軽微な組替を実施している

4．参考資料

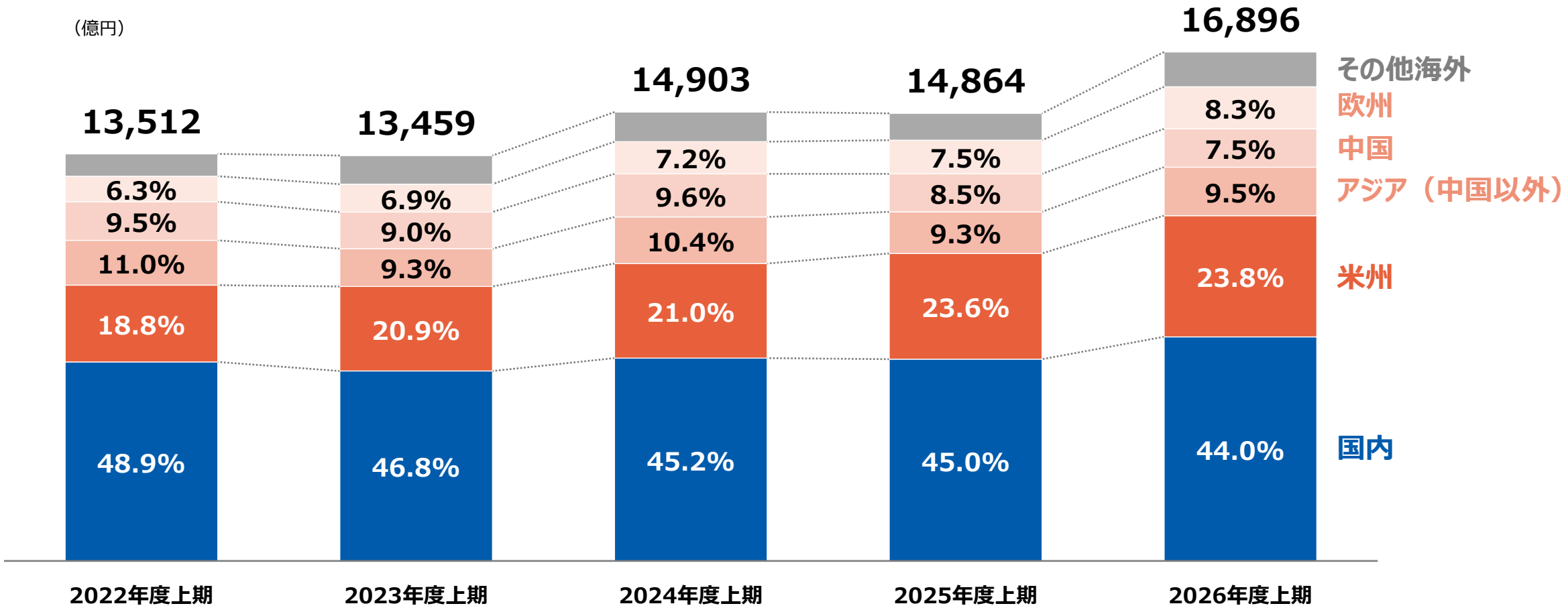
開示区分

【2025年度からの開示区分】

セグメント	サブセグメント	主な事業		
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	医薬（国内・米国）	ライフサイエンス（ウイルス除去フィルター・CDMO他）	
	クリティカルケア	ACT（除細動器・AED他）	CMS（着用型自動除細動器「LifeVest」他）	
		睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス		
住宅	住宅	建築請負（戸建・集合）	不動産開発（分譲マンション）	賃貸管理・不動産流通*1
		リフォーム	海外住宅（北米・豪州）	
	建材	断熱材	ALC（軽量気泡コンクリート）	
マテリアル*2	エレクトロニクス	電子材料	電子部品	
	カーインテリア	自動車内装材		
	エナジー＆インフラ	セパレータ	イオン交換膜	中空糸膜（マイクローザ）
	コンフォートライフ	高機能マテリアル（添加剤他）	繊維	消費財（サランラップ他）
	パフォーマンスケミカル	エンジニアリング樹脂	機能性コーティング	
	エッセンシャルケミカル	基盤マテリアル（石化関連事業）	エラストマー	
その他				
消去又は全社				

海外売上高

- 「重点成長」事業を中心とした事業拡大や、為替の円安影響ならびに石化市況の上昇等により、国内売上高、海外売上高ともに前年同期比で増加
- 米国における「ヘルスケア」や「住宅」のM＆A等により、米州の売上高比率が上昇傾向



償却費

AsahiKASEI

（億円）

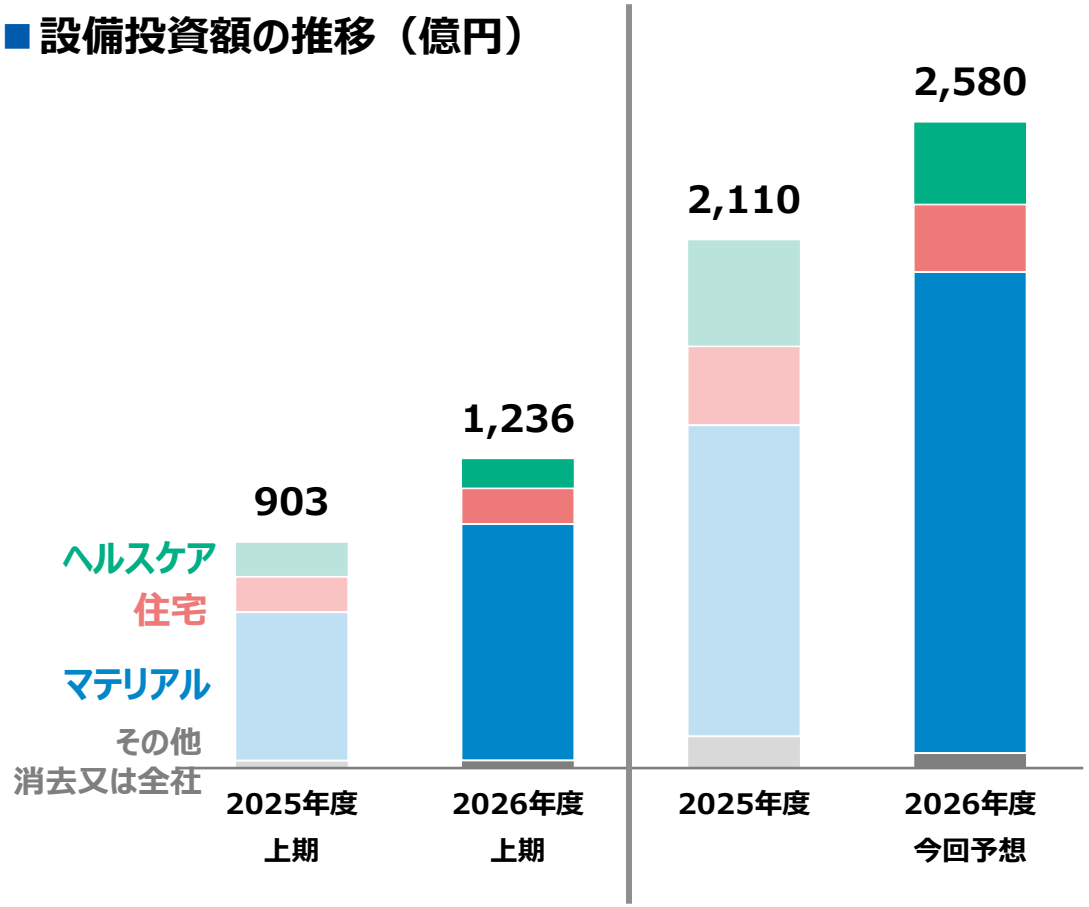
	減価償却費[*1]					のれん償却費		
	2025年度上期	うち、買収に係る無形固定資産の償却費[*2]	2026年度上期	うち、買収に係る無形固定資産の償却費[*2]	2026年度予想	2025年度上期	2026年度上期	2026年度予想
ヘルスケアセグメント	**293**	**182**	**371**	**237**	**760**	**127**	**150**	**300**
医薬・ライフサイエンス	163	119	220	170		38	54	
クリティカルケア	130	62	151	68		89	96	
住宅セグメント	**100**	**23**	**109**	**25**	**220**	**11**	**12**	**20**
住宅	89	23	97	25		11	12	
建材	12	-	12	-		-	-	
マテリアルセグメント	**329**	**19**	**336**	**20**	**700**	**26**	**28**	**60**
エレクトロニクス	34	-	37	-		-	-	
カーインテリア	55	19	59	20		25	27	
エナジー＆インフラ	79	-	69	-		1	1	
コンフォートライフ	56	-	59	-		-	0	
パフォーマンスケミカル	41	-	46	-		-	-	
エッセンシャルケミカル	33	-	29	-		-	-	
マテリアル共通	31	-	36	-		0	0	
その他	5	-	5	-	10	-	-	-
消去又は全社	64	-	59	-	120	-	-	-
合　計	**792**	**224**	**881**	**283**	**1,810**	**163**	**190**	**380**

*1　有形固定資産、無形固定資産（除く、のれん）の償却額を合算した金額で開示している
*2　買収時のPPAにおいて無形固定資産に配分された金額に係る償却額を開示している

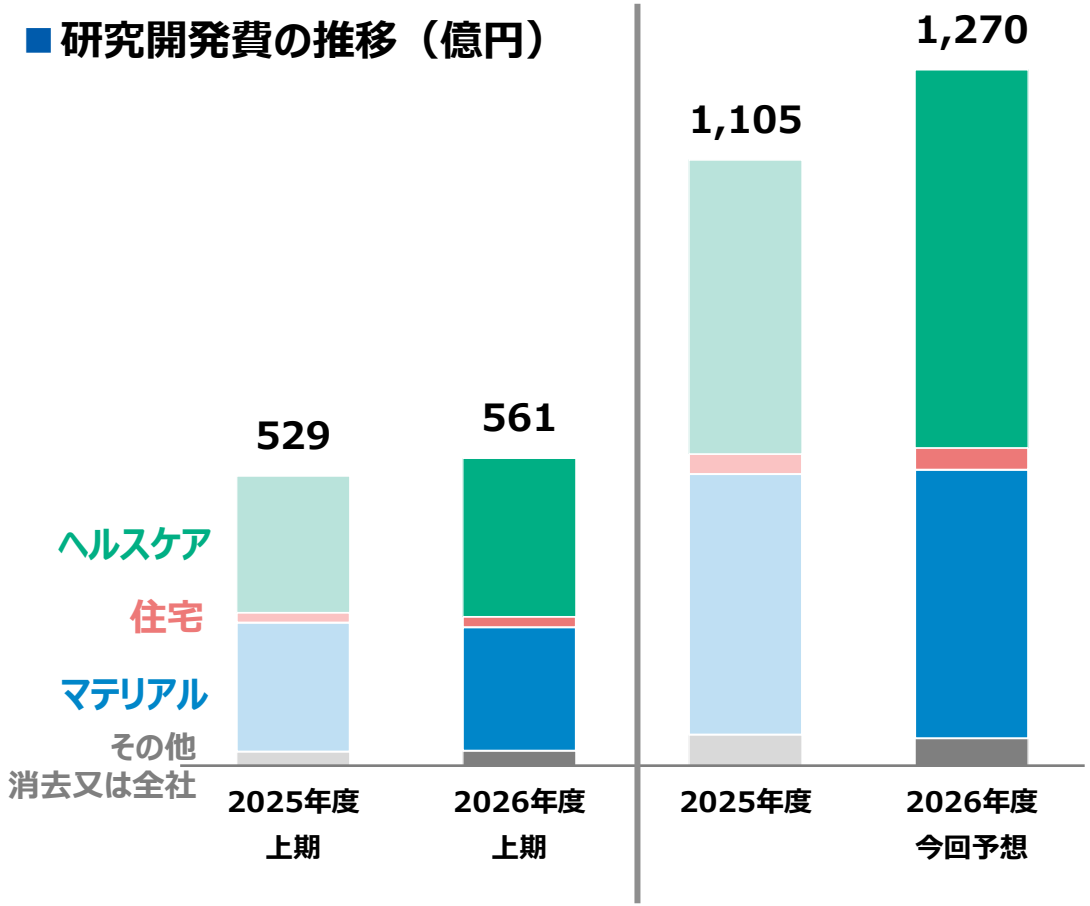
設備投資額、研究開発費

設備投資額	「重点成長」事業であるエレクトロニクス事業や、エナジー＆インフラ事業におけるセパレータの能力増強を進めている「マテリアル」を中心に設備投資額が増加する見込み
研究開発費	「重点成長」事業である医薬事業においてライセンス導入費用等の発生を見込み、「ヘルスケア」における研究開発費が増加する見込み

■設備投資額の推移（億円）



■研究開発費の推移（億円）



主な設備投資案件

AsahiKASEI

（2025年度～）

セグメント	サブセグメント	設備投資件名	能力	立地	完工時期
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	ウイルス除去フィルター「プラノバ」の新紡糸工場建設	–	宮崎県延岡市	29年度完工・商業生産開始予定
		バイオ医薬品CDMOのBionovaの能力増強	–	米国カリフォルニア州	27年度以降完工予定
		バイオ医薬品CDMOのBionovaのプラスミド製造における新規施設建設	–	米国テキサス州	プロセス開発：25年度上期完工 GMP製造*2：26年度以降完工予定
マテリアル	エレクトロニクス	感光性絶縁材料「パイメル」の生産能力増強	–	静岡県富士市	27年度完工予定
		感光性ドライフィルムレジスト「サンフォート」のスリット新工場	–	台湾台南市	26年度上期完工
	エナジー＆インフラ	リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」の塗工能力増強	約6億㎡／年	米国ノースカロライナ州、宮崎県日向市	26年度上期完工
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」の製膜・塗工一貫ライン建設	約7億㎡／年*1	カナダオンタリオ州	27年度完工予定 （稼働時期は当初計画から1.5～2年の延期を想定）
		アルカリ水電解および食塩電解向け電解用枠・電解用膜の新工場建設	2GW／年	神奈川県川崎市	28年度完工予定
	マテリアル共通	水力発電所改修（水ヶ崎発電所）	–	宮崎県西臼杵郡	25年度上期完工

完工時期：FY25上 / FY25下 / FY26上 / FY26下 / FY27上 / FY27下 / FY28上 / FY28下

*1 塗工膜換算 *2 医薬品製造業者が遵守すべき製造管理および品質管理の基準（GMP）に準拠して医薬品の製造をすること

主なM&A案件

AsahiKASEI

（2025年度～）

セグメント	サブセグメント	企業名	事業内容	買収金額	のれん発生額	業績貢献（PL連結開始）			
						FY25上	FY25下	FY26上	FY26下
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	Aicuris Anti-infective Cures AG	抗ウイルス薬を中心とした医薬品の研究開発	1,443億円	未確定			26年5月	

主な構造転換の進捗状況

AsahiKASEI

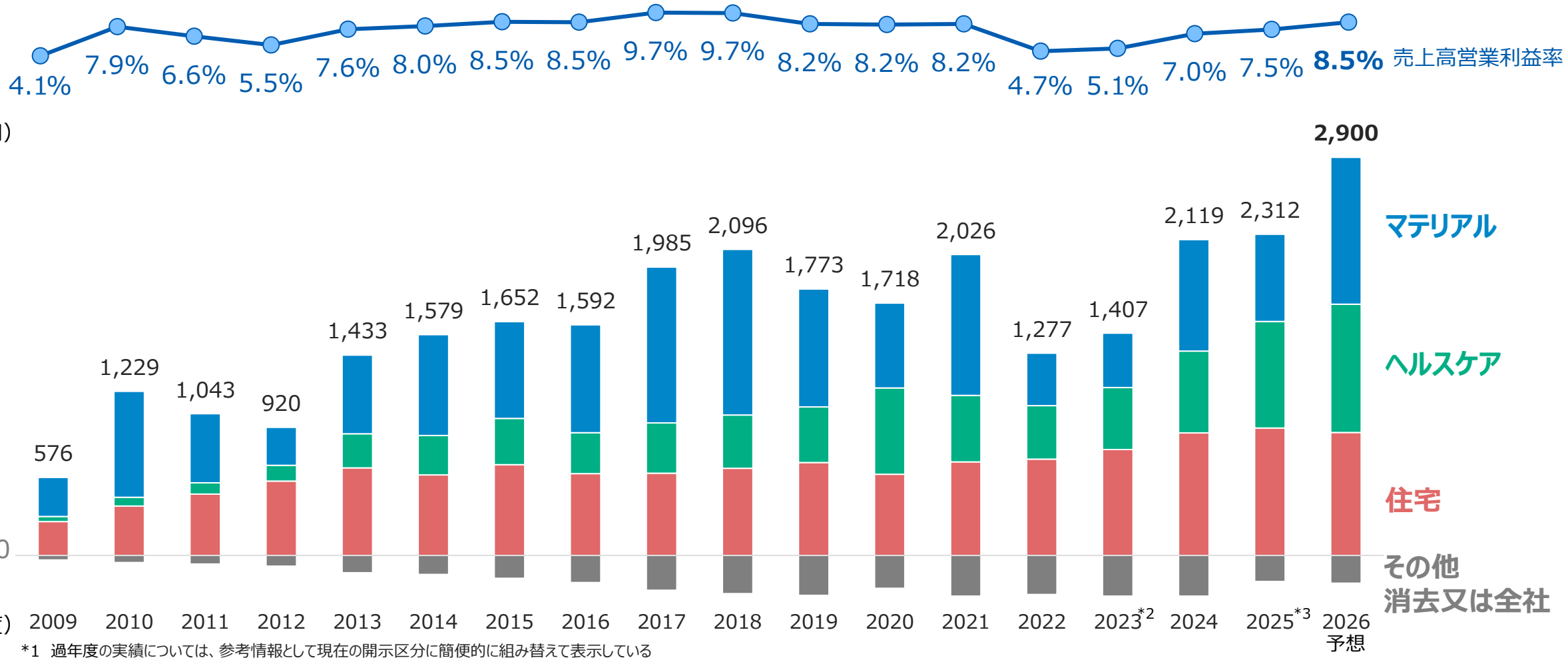
（2025年度～）

セグメント	サブセグメント	案件	実行時期
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	セパセル（白血球除去フィルター）事業の撤収	27年3月生産・販売終了予定
		診断薬事業等の譲渡	25年7月譲渡
	クリティカルケア	データマネジメント事業の一部譲渡	25年11月譲渡
マテリアル	エナジー＆インフラ	鉛蓄電池用セパレータ事業の譲渡	25年12月譲渡
	コンフォートライフ	旭化成アドバンス（商社機能）と帝人フロンティアの経営統合	26年10月統合
	パフォーマンスケミカル	ヘキサメチレンジアミン（HMD）の生産終了	27年4月生産終了予定
	エッセンシャルケミカル	PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル事業等の撤退	工場設備の撤去工事
		MMA、CHMA、アクリル樹脂、SBラテックスの事業撤退	MMA 26年9月生産・販売終了 CHMA 26年3月生産・販売終了 アクリル樹脂 26年9月生産終了・27年9月販売終了予定 SBラテックス：27年9月生産終了・27年12月販売終了予定
		西日本におけるエチレン生産体制のグリーン化および生産能力の最適化	2030年度を目途に三菱ケミカル旭化成エチレンのエチレン製造設備を停止予定
		水島製造所の一部誘導品事業の再構築	2030年度を目途に生産終了もしくは供給体制の再構築を実施予定

営業利益の推移*1

AsahiKASEI

- 「住宅」の安定的な利益成長や、「ヘルスケア」の利益拡大により、利益構造はレジリエント化が進んでいる
- 「マテリアル」が経営環境の悪化を受けて2018年度の営業利益をピークに減少していたが、2022年度を底に改善傾向
- 全社の営業利益は、2026年度に3期連続で最高益更新を目指す



*1 過年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している
*2 2022年10月31日付で買収を完了した米国Focusの取得原価の配分が2023年度第1四半期に完了したことに伴い、2022年度の業績を遡って修正している
*3 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更している

注記およびIRカレンダー

＜注記＞

- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去やセグメント共通費用を含んでいるため、サブセグメント別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない

＜IRカレンダー＞

2026年度第3四半期決算
決算発表予定日

2027年2月4日（木）

＜お知らせ＞

「旭化成レポート2026」を発行



WEBサイトはこちら

「IR優良企業賞2025」を受賞

2025 IR Prime Business Award
優良企業賞
Member of
Japan Investor Relations Association

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。


AsahiKASEI
Creating for Tomorrow